鹿児島大学総合教育機構

年 報

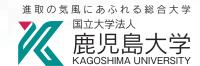
第4号

2020

CONTENTS

- I. ごあいさつ
- Ⅱ. 総合教育機構組織
- Ⅲ. 各センター活動報告 高等教育研究開発センター 共通教育センター キャリア形成支援センター アドミッションセンター グローバルセンター

令和3年度 総合教育機構構成員一覧



総合教育機構 年報 第4号 目次

Ι.	ごあいさつ	. 3
Ι.	総合教育機構組織	. 5
Ⅲ.	各センター活動報告	
	高等教育研究開発センター	. 8
	共通教育センター	13
	キャリア形成支援センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	35
	アドミッションセンター	45
	グローバルセンター	52
合和		62

I. ごあいさつ

ごあいさつ

鹿児島大学総合教育機構長 武隈 晃

未曾有のコロナ禍にあり、総合教育機構にとっても2020-2021年 は試練の年となりました。対面での授業実施の制約、困難極まる中 での入試の実施、外国人留学生の来日制限や鹿大学生の海外派遣中 止、インターンシップや就職活動上の制約、機関別認証評価受審に 関わる多方面に及ぶ準備と学内整備等々、おそらく総合教育機構に よる全学に亘る管理機能が発揮されなければ、厳しい状況に対峙す ることは到底できなかったように思われます。



総合教育機構は鹿児島大学の第3期中期目標・中期計画における

「グローバルな視点を有する地域人材育成の強化」を旗印に、「地域特性を活かした教育および国際化に対応した教育の推進」、「高大接続の見直し」、「アクティブ・ラーニングの強化」、「教育の内部質保証システムの整備」、「学生支援の拡充」を掲げ、本学初の機構として2017年4月に発足しました。共通教育の実質化と高度化、及び学士の質向上を目指し、地域人材育成の司令塔としての役割を担っています。

具体的な取組内容は、学部教育に繋がる共通教育の体系的カリキュラム構築、客観的成績評価 方法の確立、学習過程の可視化、単位の実質化、学部横断的な地域人材育成です。特に高大接続 としての初年次教育の実施は大学教育を受ける基本的なスキルを身につけると同時に、学生が在 学中に質と量を伴った学習時間を確保する上で大変重要です。

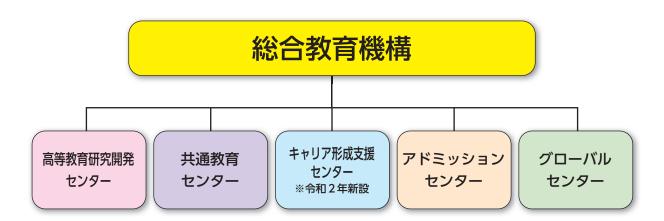
総合教育機構は、高等教育研究開発センター、共通教育センター、アドミッションセンター、 グローバルセンター、キャリア形成支援センター(2020年4月発足)からなり、総勢50名を超え る教員と最前線に立つ多くの事務職員・特任専門員により構成されています。大学全体の教育の 人的資源が削減される中での人員強化を伴う機構の設立は鹿児島大学の近年における最大規模の 組織改革であり、2022年からの第4期中期目標・計画期間に引き継がれます。

総合教育機構は鹿児島大学教育改革の牽引役として、本学独自の教育システムを創り上げていくことに貢献していきます。そのために、具体の教育活動や事業の展開を鹿児島大学構成員が共有するとともに社会に広く届ける広報活動が重要になります。この年報はその大切なツールとなるものです。ご高覧頂きご理解を頂くとともにご批正賜ることができれば幸甚に存じます。

最後になりますが、年報の編集に協力いただいた皆様に衷心より御礼申し上げ、年報発刊のご 挨拶とさせていただきます。

Ⅱ. 総合教育機構組織

総合教育機構組織



総合教育機構は、鹿児島大学(以下「本学」という。)の大学憲章、教育目標、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー及びアドミッションポリシーに基づき、優秀な学生を確保するため入学者選抜方法を改善し、教育の質の向上を図るため常に教育の改善・充実を行い、質の保証された優秀な学生を輩出することを目的とし、高等教育研究開発センター、共通教育センター、アドミッションセンター、グローバルセンターの4センター体制で発足し、その後、令和2年度には新たにキャリア形成支援センターが新設され、学生の支援体制の更なる充実が図られています。

高等教育研究開発センター

高等教育に関する研究・開発・提言及び高等教育に係る全学的な連絡調整等を行うことにより、 鹿児島大学における教育の充実・発展を図ることを目的とするセンターです。

高等教育研究開発センターは、我が国と海外の高等教育(⇒大学)について研究し、これをベースとして現在の鹿児島大学が置かれた状況をデータに基づき的確に把握するための調査・検討を行っています。

共通教育センター

全学協力体制に基づいて実施する共通教育及び学芸員資格科目に関する企画・立案・実施並びに教育に係る全学的な連絡調整等を行うことにより、本学の教育の充実・発展を図ることを目的とするセンターです。

共通教育センターは、共通教育の運営及びその質保証・質的向上に責任を負い、教育内容や方法の改善に向けた取組を恒常的に展開します。特に、アクティブ・ラーニング型授業の拡充に努め、能動的に学ぶことのできる学生の育成に努めます。

キャリア形成支援センター

全学的なキャリア形成支援体制のもとで、キャリア教育及びインターンシップを含めたキャリア形成・就職支援を充実・推進し、学生の多様なキャリア形成を全学的立場から支援することを目的とするセンターです。

キャリア形成支援センターは、入学時からの体系的なキャリア教育や正課外のキャリア・支援、 さらにインターンシップやキャリア・就職相談等を通し、1年次から卒業まで、さらに卒業後も 含めた学生の多様なキャリア形成を全学的な立場からサポートします。

アドミッションセンター

入学者選抜方法の改善、中長期的な入学者選抜方法の在り方の策定、入学者選抜機能の検証、 学生確保に係る広報活動等を行うことにより、継続的に優秀な学生を確保することを目的とする センターです。

グローバルセンター

教育研究の国際活動、海外機関等との連携、国際協力事業支援、海外広報並びに外国人留学生に対する日本語・日本文化教育の企画及び運営を行うとともに、これらに関連するテーマに係る調査及び研究を通じて本学の国際化を推進することを目的とするセンターです。

グローバルセンターは国際共同教育研究の促進を支援すると共に日本人学生の海外への留学、 外国人留学生の受入を促進します。

Ⅲ. 各センター活動報告

高等教育研究開発センター

高等教育研究開発センター

活動報告

I. 活動概要

令和2年度に高等教育研究開発センターが主体的に関与した業務は以下の7点である。1~6 は前年度から継続して関与しているものであり、当センター単独の取り組みというより全学的な 取り組みに当センターとして一定の関与をしたものである。7については、鹿児島大学における 新型コロナウイルス感染症対策の観点から遠隔授業が全学的に実施されたことを受けて発生した 業務である。

- 1. 全学的な教育改革の推進
- 2. 「地域人材育成プラットフォーム」の運営
- 3. 全学的 FD の企画・運営
- 4. 教学 IR の推進
- 5. manaba の活用・運用
- 6. 特任助手制度の運用
- 7. 遠隔授業の支援

1. 全学的な教育改革の推進

令和2年度の主な取り組みは、以下の2点である

- ① 教育改革に向けた論点の整理と方向性の提案
- ② 学士の質保証に関する仕組みの整備に向けた提案

教育改革の推進への寄与はこれまでの当センターにとって最も重要なミッションであり、それは新型コロナウイルス感染症の影響を強く受けることとなった本年度においても何ら変わるものではない。全学教育委員会や全学 FD 委員会、総合教育機構教育等企画会議を通じて全学的に情報を発信し、本学全体の教育改革を適切に進めることに貢献した。

特に今年度においては、前年度末に新たに立ち上げられた学位の質保証の在り方検討委員会において、各WGでの検討から委員会としての最終報告書作成に至るまで深く関与し、大きく貢献した。この最終報告書については、次年度以降具体的な改革を進める上での指針となるものであることから、改革の方向性がぶれることのないよう、引き続き関与していく。

2. 地域人材育成プラットフォーム

地域人材育成プラットフォームについては、前年度にカリキュラムや修了要件単位数の大幅な 見直しを行い、基礎篇・実践篇それぞれ8単位で修了可能となった。その結果を受けた今年度は、 かごしま地域リサーチ・プログラムでは1名、かごしまキャリア教育プログラムでは7名、かご しまグローバル教育プログラムにおいて1名、合計9名の修了者を輩出した。

当センターは地域人材育成プラットフォームの統括とかごしま地域リサーチ・プログラムの運営に責任を負っている。前者については、前年度に大幅な変更を加えた直後であることから、今

年度についてはその成果を見極めることを重視した。具体的な運営に関する議論は総合教育機構内に設置された地域人材育成プラットフォーム運営委員会において審議されることから、当センターにおいては全体として改革や改善が必要な事項が生じたときにその審議とその後の提案を行う形で役割を分担した。

3. 全学的 FD の企画・運営

今年度については、新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、対面での企画実施が非常に困難となった。それを受け、今年度の全学的 FD 企画については、全て遠隔開催とした。また、遠隔開催ということでワークショップ等は困難であることから、これまで毎年実施してきた企画についても中止や複数開催等の対応を行った。

具体的に実施した企画は以下の通りである。

- 第1回FD·SD合同フォーラム(テーマ:新型コロナウイルス感染症流行下における学生・ 教職員のメンタルヘルス問題)
- 第2回 FD・SD 合同フォーラム (テーマ:全員で考える遠隔授業―ともに新しい学びのスタイルへ―)
- 連続 FD セミナー

特に新たな試みといえるのは第2回 FD・SD 合同フォーラムと連続 FD セミナーである。

前者は、枠組みそのものは以前からあるものだが、新型コロナウイルス感染症対策の観点から対面での企画実施が困難となった学生・教職員ワークショップを引き継ぐ形で、学生・教員・職員という3者が全て登壇するパネル・ディスカッションとして企画した。FDを目的とした企画において職員が登壇することはパネル・ディスカッションといえどもこれまでにはなかったものである。そしてそれ以上に、学生が登壇して本学のFD及びSDに貢献するというのは初めての試みであった。後述する「遠隔授業に関するアンケート」等で学生の意見を把握するよう努めてはいるものの、遠隔とはいえ、リアルタイムで学生の思いや考えを聴く機会はこれまでほとんどなかったため、教育改善を考えるうえで非常に有意義かつ価値のある取り組みとなった。

後者については、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて急遽全学的に始まった遠隔授業について、先述の「遠隔授業に関するアンケート」において学生から高い評価が集まった授業の担当教員を講師として全10回開催した。主な目的はノウハウの共有である。登壇した教員はいずれもおそらく対面授業においても評価の高い教員であったと推測されるが、遠隔授業という新しい試みに対して、それを支えるmanabaやZoomといったツールには必ずしも詳しくない場合でも、学生ができるだけ充実した学びを行うことができるようきめ細やかな配慮が行われていた。

遠隔授業はほとんどの教員にとって未経験の取り組みであり、その状況下で教育の質を落とさないためにはノウハウの共有は欠かせない。その点で、遠隔開催ということで準備等の負荷も少なく、1回の企画が比較的短い時間で完結し、なおかつその模様をオンデマンド教材として後日視聴可能であるこのような企画の運営方法は、今後の全学的FD企画を考える上では有効な方法だといえる。

4. 教学 IR の推進

今年度、教学 IR の取り組みとして、以下3つのアンケートを実施した。いずれも基本的には web 調査であった。

- 大学 IR コンソーシアムアンケート
- ・ 卒業予定者アンケート

遠隔授業に関するアンケート

大学 IR コンソーシアムアンケートについては、例年通り実施した。詳細は FD 報告書等の記述に譲るが、例年と比較して大きな変化は見受けられなかった。また、結果について各学部においても分析と課題の抽出、そして改善策の検討を行うこととした。このような形で教学 IR を具体的な教育改善へとつなげるサイクルの確立に取り組んだ。

卒業予定者アンケートは、今年度で2回目であるが、本学の教育改善にとって非常に貴重な検討材料である。個別の対応については各学部・研究科に委ねることになるものの、大学全体として卒業予定者の把握を行い、次年度に向けた検討も少しずつ進めることとした。

遠隔授業に関するアンケートについては、新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえて6月に1年生のみを対象として実施し、その後は前後期末にそれぞれ全学部学生及び大学院生を対象として実施した。学生がメンタルヘルスの側面からもかなり好ましくない状況等に陥っていることや教員のスキル差によって遠隔授業のフォローアップに関する落差が大きいなどの指摘がなされた。次年度以降は、ノウハウの共有だけでなく、学生が今の社会状況や新型コロナウイルス感染症対策等についてどう考えているか、昨年度の状況を乗り越えるためには何にどう取り組み、今後どう過ごしていきたいかなど、テーマに応じて学生を巻き込む形で議論を行っていきたいと考える。

5. manaba の活用・運用

manaba については、後述する遠隔授業を支える仕組みとして、今年度その存在感を大きくした。つまり、遠隔授業に関する資料や動画の配信や学生への連絡などの基盤となるシステムとして機能したといえる。当初はアクセス集中に対する懸念などもあったものの、年間通じて大きな役割を果たした。

また、manaba上に開設した「教員 FD コース」を通じて、遠隔授業を計画・実施するに当たっての疑問に対応したり、そのノウハウを共有したりするなど、教員の FD を支える基盤としての役割も果たした。

なお、研修会等は今年度も、形態は遠隔開催になったものの例年通り実施した。

6. 特任助手制度の運用

特任助手制度は一昨年度より開始したもので、今年度は当初11名であった。業務については、これまで同様に「初年次セミナー」における授業運営支援を行った一方、新型コロナウイルス感染症対策の観点から図書館ラーニングコモンズでの学習相談については休止した。「初年次セミナー」での活動についても、授業は遠隔授業として運営されたため、例年と比較した場合、その具体的な業務の中身は例年とは異なるものとなったといえる。

研修業務については、年度の終わりごろに今年度の新規採用者2名を中心にシラバス作成、模擬授業等の活動を行った。模擬授業については他の特任助手も含めて参加し、意見交換を行うことで、多様な視点からの解釈を受けることができ、より充実した教育能力の開発を促すことができたと考える。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響によってその活動にはかなりの制約が生じたものの、多くの者が大学等の研究員や学術振興会特別研究員等に採用されるなどの成果が得られた。

7. 遠隔授業の支援

遠隔授業は、昨年度末からの新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から全学的に取

り組むこととなった。しかし鹿児島大学においては、共同獣医学部で山口大学との授業同時配信が行われていたものの、遠隔授業の経験のある教員・学生は極めて少ない状況であった。

このような状況を受け、遠隔授業支援を組織的に支援する仕組みが必要であるとの認識に基づき、当センター内に遠隔授業サポートチームが発足することとなった。特任研究員や事務補佐員を配置し、教職員や学生からの相談に対応するとともに、必要に応じてリアルタイム配信の支援やオンデマンド配信のための教材作成支援などにも取り組んだ。

また、遠隔授業の教材配信やリアルタイム配信に関する情報伝達のための基盤が必要であるとの見地から、manabaの活用を推進したことについては先述の通りである。「教員 FD コース」を開設してノウハウの共有を可能にしたほか、連続 FD セミナー等を録画しオンデマンド配信するなどして遠隔授業の設計・運営に関するスキルアップにも取り組んだ。

先述の遠隔授業に関するアンケートにおいては、遠隔授業の成果と課題の把握も行った。全体的にはおおむね好意的な評価が得られ、その成果が認められたといえる。しかしその一方、個々の授業レベルでは評価の高いものもあれば批判的な意見が多くなされる授業もあるなど、授業ごとの差が大きい現状が明らかになった。その背景には、manabaや Zoom等のツール活用に関するスキルの差があるだけでなく、教員の熱意も大きく影響していると推測された。このため、次年度以降も継続して実施する遠隔授業においては、スキルの育成だけでなく、教員の意識改革にも取り組む必要があるといえる。

I. 共通教育センター活動報告 令和2年度共通教育センター長 末吉 靖宏

はじめに

前年度の総合教育機構年報の共通教育センター報告の文末で、前年度共通教育センター長の桑原季雄先生が懸念を示されていた通り、令和2年度の共通教育は、新型コロナウイルス感染症の蔓延拡大状況の中ではじまり、年間を通じてこれに向けての対応が求められた。そこで、今年度の報告では、第1節に「コロナ禍における共通教育センターの授業対応」としてまとめる。

同時に、令和2年度は、平成28年度からスタートした共通教育の新カリキュラムの授業体制の維持と新たな改革を模索する時でもあった。全学的にも「学位の質保証の在り方検討委員会」が設置され、この年度内に報告書がまとめられ、この後、その対応により、改革を推し進めていくことになると考えられる。この年度の様々な検討課題については、共通教育センター企画会議で原案を検討し、共通教育センター運営委員会及び共通教育委員会で審議した。第2~4節では、各会議での審議事項について見ていくことで、令和2年度の共通教育センターの活動を振り返る。最後に第5節で今後の展開の見通しを述べる。

1. コロナ禍における共通教育センターの対応

令和元年12月に中国において発生したとされる新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は、令和2年2月に日本国内感染拡大がみられはじめ、2月28日には全国の学校における一斉の臨時休校が実施された。この間、全国への感染の拡大がみられた3月末には共通教育センターでも前執行部の方々とコロナ禍での授業対応について検討を行った。同時に、全学においても、遠隔授業での授業の実施が模索されていることが伝えられた。

4月になり、共通教育センター内の教員とのやり取りの中で、本学においても遠隔授業の準備中であり、他の教員への講習会等可能である旨の情報をいただき、早速にセンター内で「遠隔授業サポート WG」として検討を開始した。

4月当初に開催された総合教育機構会議(4月2日開催)および共通教育センター運営委員会(4月3日開催)の席で、全国および県内での新型コロナ感染症拡大状況に対する対策として、これまで教室で行っていた多くの対面授業を Zoom などの導入を前提とした遠隔授業に振り替えて実施する提案を行った。これに対し、センター内からはいくつかの懸念事項も示されたが、全体的な状況からこの方針で対応していくことを決定した。

高等教育研究開発センターの森裕生先生が中心となり、遠隔授業の手法が類型化され、①鹿児島大学使用のLMSである manaba を活用する資料配布型、② Zoom のような遠隔会議システムを利用するリアルタイム遠隔授業型、および③授業内容をあらかじめ動画撮影しておきこれらの配信による動画配信型、の3つの方式が示された。共通教育センター内の多くの教員は、②のZoomによるリアルタイム遠隔授業を採用し、この方式に関する研修や情報交換及び共有が多くなされていった。

なお、授業方針については、その時々の感染状況に従って、全学会議「鹿児島大学の教学事項 に係る新型コロナウイルス感染症特別会議」で検討された後発出された教育担当理事方針に従 い、共通教育センターの授業も実施された。

共通教育センターの主な授業対応は、以下の通りであった。

当初の対面授業では、感染防止目的の学生間距離確保の方針から大人数の講義において対面授業ができなくなったため、ほとんどの講義形式の授業は、Zoomによる遠隔授業もしくは動画配信授業に置き換えられた。実験科目は、前期開講予定の授業は全て後期に延期として実施した。体育の実習は、ストレッチ運動、筋力トレーニング、有酸素運動の実技を、Zoomを利用した遠隔授業で実施した。国内外の宿泊を伴うフィールドワーク等の体験型授業は、全て中止または延期とした。延期した授業もこの年度内は全て中止となった。

遠隔授業時における学生の孤立および心理ストレスの懸念があったため、体育・健康教育部門による新入生ストレスチェックや高等教育研究開発センターよる遠隔授業に関する学生アンケートなどが実施され、授業実施の参考に供された。感染状況下における成績評価の仕方については、感染拡大防止目的で、通常であれば対面による試験を実施する授業についても、レポート等非対面での成績評価が推奨された。

2. 共通教育センター企画会議

共通教育センター企画会議では、主に次のような議題が取り上げられた。すなわち、「鹿児島大学共通教育センター運営委員会規則の一部改正」、「鹿児島大学共通教育センター研究倫理規則の制定」、「鹿屋体育大学の大学院教育との連携協定締結」、「『大学と地域』後期開講の依頼」、「試験における不正行為」、「令和3年度の『初年次セミナー』の基本方針」、「令和3年度の『情報活用』の基本方針」、「全学共用スペース拠出計画」、「『地域人材育成プラットフォーム』への協力」、「鹿児島大学共通教育センター非常勤講師(非常勤ゲスト講師)に関する申し合わせ等の一部改正について」などであった。

「鹿児島大学共通教育センター研究倫理規則の制定」については、センター内の教員からのヒトを対象とする研究実施の申請に伴い、共通教育センター内で、同種の研究の倫理審査を行うための研究倫理委員会設置の必要性が生じたことから、「鹿児島大学共通教育センター研究倫理規則(案)」の検討を行った。数回の共通教育センター企画会議および共通教育センター運営委員会での審議を経てこの案が規則として認められた。

「令和3年度の『初年次セミナー』の基本方針」については、総合教育機構初年次セミナーWGは、令和3年度の「初年次セミナー」の授業方針について諮り、認められた。すなわち、授業の目的、内容および成績評価については、令和2年度の方法を踏襲する。また、成績の分布についても一定の根拠が求められることから今後検討していく。授業計画については、令和2年度の前期開設の「初年次セミナー I」、後期開設の「初年次セミナーI」について、名称は変えず、内容を前・後期入れ替えて実施する。クラスサイズも令和2年度を踏襲する予定のため、科目担当教員の確保のための検討を進める、といった内容である。

「令和3年度『情報活用』の基本方針」では、令和3年度の「情報活用」についての基本方針が諮られた。科目の枠組み、目標は令和2年度を踏襲する。クラス編成は、学部学科単位のクラス編成とする。情報セキュリティ教育、情報倫理教育は、全学必修化の方針に基づき、授業内容(一部コマ数)に取り入れられているが、令和3年度も継続する。数理データサイエンス教育を全学必修化する方針に基づき、情報活用基礎の3コマ程度をこの内容に当てることになり、令和3年度もこの点を踏襲する。以上のように、情報セキュリティ教育・情報倫理教育・数理データサイエンス教育の内容はシラバス上も全学共通の内容とし、他は各学部学科の事情に合わせた内容とする。令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響も考えられるため、対面授業と遠隔授業の円滑な切替えが行えるような授業設計を行う。

「成績評価に関するガイドラインの策定」については、令和2年11月24日に教務委員会でまとめられた「成績評価に関するガイドライン」について審議し、承認を得た。この中で、各成績の

定義とともに、「秀」評価対象者の割合を定めることに対してセンター内では異論も示された。 しかし、他学部でもあった同様の意見に対して、認証評価受審にあたり必要なこととしてまとめ られた案であることから、センターでも組織として最終的には了承の合意形成がはかられた。

3. 共通教育センター運営委員会

共通教育センター運営委員会では、主に次のような議題が取り上げられた。すなわち、「令和元年度ベストティーチャー賞候補者の推薦」、「2020年度教養教育科目(教養基礎科目(人文社会・自然)・教養活用科目)の夏季集中講義および後期開講科目の再募集」、「『大学と地域』後期開講の依頼」、「令和3年度初年次セミナーについて」、「令和3年度『情報活用』の基本方針」、「成績評価に関するガイドラインの策定」、「『地域人材育成プラットフォーム』への協力について」、「成績評価に関するガイドラインの策定」、「学位の質保証の在り方検討委員会報告書」、「共通教育科目等のシラバスチェックに関する申し合わせ」、「アンスティチュ・フランセ日本との協定書の締結」、「令和元年度IRコンソーシアム学生調査結果の評価・分析」、「令和3年度初年次セミナーの実施」などであった。

「令和元年度ベストティーチャー賞候補者の推薦」については、(令和元年度のベストティーチャー賞として共通教育センター FD 委員会から候補者5名の推薦が行われ、このうち本年度に関してはベストティーチャー賞1名の推薦も FD 委員会から行われることについて共通教育センター運営委員会で認め、今回は)総合教育機構高等教育研究開発センターの森裕生先生を(ベストティーチャー賞に)選出することを決定した。

「2020年度教養教育科目(教養基礎科目(人文社会・自然)・教養活用科目)の夏季集中講義および後期開講科目の再募集」については、令和2年度の教養教育科目のうち教養基礎科目(人文社会・自然)と教養活用科目(教養選択科目)について、科目の精選と、令和2年度に入って以降の新型コロナウイルス感染症蔓延の影響で、令和元年度に比べて開講科目数が減少した。このため受講者数も減っていた。学生の履修と進級・卒業を保障するため令和2年度に限り、前期夏季集中講義と後期の教養選択科目の開講を再募集し、学生に履修登録を促す措置を講ずることを決定した。

「『地域人材育成プラットフォーム』への協力」については、高等教育研究開発センター長から協力依頼があり、「地域人材育成プラットフォーム」の中の「かごしまキャリア教育プログラム」の運営にあたり、新規に実施される「地域キャリア修了演習」について履修学生のプレゼンテーションに向けた個別指導者および「キャリアデザイン」のゲストスピーカー各1名について共通教育センター教員の中から追加して各1名を推薦するように依頼があった。これについて前者の担当として外国語教育部門の日高佑郁先生、後者に体育・健康教育部門の髙橋恭平先生の推薦を行った。

「学位の質保証の在り方検討委員会報告書」については、第3期中期目標【A3】「教育目標の達成に向け、体系的カリキュラムを整備するとともに、学習成果を可視化し、教育内容・方法の改善サイクルを確立し、全学的な教育の内部質保証システムを整備する。」の達成に向けて、鹿児島大学に入学する学部学生の学位の質保証の在り方及びその方策について審議を行う鹿児島大学学部学生の学位の質保証の在り方検討委員会が令和元年12月に設置された。当該委員会において、学部学生の学位の質保証の在り方及び学部学生が滞りなく学位を取得するための方策等について検討を重ね、その検討結果を「学位の質保証の在り方検討委員会報告書」(案)としてまとめられた。この報告書(案)についての意見が提示され、議論が行われた。最終的にはこの案が、全学教務委員会で認められた。

「共通教育科目等のシラバスチェックに関する申し合わせ」については、令和3年度に予定さ

れている評価機構の認証評価受審に備えて、シラバスの整理が求められるが、初年次・教養科目 分科会で作成されたシラバスチェックに関する申し合わせ事項を、共通教育センター全体で適用 できるよう修正し、運営委員会で審議した。この結果、シラバスチェックは、各部門および科目 専門分科会で行うことにした。

「アンスティチュ・フランセ日本との協定書の締結」では、フランス語担当の常勤教員が退職となり、非常勤教員も含めて授業担当教員が不足することが明らかなことから、外国語教育部門の検討により、アンスティチュ・フランセ日本に講師派遣を依頼する協定書を結ぶことになった。アンスティチュ・フランセは、フランス政府公式のフランス語学校・フランス文化センターで、国内の大学への非常勤講師派遣実績も有している。今回は、遠隔授業により授業担当を行っていただくこととした。

「令和3年度初年次セミナーの実施」については、総合教育機構初年次セミナー WG から令和3年度初年次セミナー I・IIの授業計画案が示された。令和3年度は、令和2年度の内容を踏まえ、初年次セミナー IIとIIの実施時期を前後期入れ替えて、令和2年度の初年次セミナーIIの内容を令和3年度は初年次セミナーIIとして前期に実施し、令和2年度の初年次セミナーIIの内容を令和3年度は初年次セミナーIIとして後期に実施するという変更を行うことが伝えられた。

4. 共通教育委員会

令和2年度の共通教育委員会の主な議題は、「令和2年度前期における共通教育科目の授業の実施方針」、「令和2年度後期情報セキュリティ教育内容の全学共通科目(初年次セミナー)での実施」、「令和3年度(2021年度)共通教育行事予定表(案)」、「令和3年度入学生授業時間割」、「令和3年度入学生共通教育科目卒業要件単位数」、「令和3年度入生授業時間割」、「令和3年度初年次セミナーの全学支援体制」、「令和3年度入学生共通教育履修案内」、「試験における不正行為について」、「令和3年度開設授業科目」、「令和3年度入学生共通教育履修案内」、「令和3年度新入生オリエンテーション」であった。

「試験における不正行為」について、令和2年度は、コロナ禍への対応のため、多くの授業が遠隔で行われたためか、成績評価のためのレポートに関する不正行為が多く見られた。多くの場合、同課題の提出者のものと文の類似性が高いことが認められるものであった。遠隔授業そのものに対する学生の授業評価は、従来行われていた対面での授業に劣らないとの学生の評価を得ていたが、対面での指導が限られた中、レポート課題への取組に対する指導の改善の必要性が求められることとなった。また、ほとんどの授業を遠隔授業で行う中、学生の心理状態や遠隔授業への対応状況が案じられ、これらに係るいくつかの臨時の学生アンケケートが実施された。その中の一つは、体育・健康教育部門が行ったストレスチェックであり、他の一つは、高等教育研究開発センター主催の遠隔授業に関するアンケートであった。

「令和2年度後期情報セキュリティ教育内容の全学共通科目(初年次セミナー)での実施について」は、コロナ禍により、今年度の授業はほとんど遠隔授業で行われている。この実情を踏まえ、改めてコンピュータウィルス感染防止対策をはじめとする情報セキュリティに関する情報の学生への徹底が必要となった。このため、共通教育の全学生受講対象の授業であり、後期に開設される「初年次セミナーII」において授業の中で、この内容を取り上げることになった。なお、教材については、学術情報基盤センターの方で、この内容に対応する動画を作成いただくことも伝えられた。

「2020新入生ストレスチェック・全体結果報告について」は、コロナウイルス感染症蔓延の影響で、ほぼすべての授業が遠隔授業で行われ、受講している新入生は、新しい環境で、大学の友人もできず、教員とも話す機会はなく、孤立によるストレスが心配された。その状況を把握し、

対応策を検討するため体育・健康教育部門では、新入生全員を対象にストレスチェックのアンケートを実施した。先行研究の同年代被検者との比較では、全体平均値においてストレス状況はそれほど高くはなかったが、個別的には高いストレスを抱える学生が含まれていることが示された。また、「めまい」、「不眠傾向」、「目の疲れ」など、長時間の遠隔授業が関わるともみられる自覚症状を訴える学生が多いことも判明した。

「新入生オリエンテーション」については、令和3年度新入生に対する各学部の新入生オリエンテーションにおいてこれまでと同様、要請のある学部に対して共通教育に関するオリエンテーションを共通教育センターで行う予定である。その際、昨年度実施したようにあらかじめ動画を作成しておき、それらを各学部オリエンテーション内で視聴いただく形式で行うことについて審議いただいた。

5. 今後の展開

現在の新型コロナウイルス感染状況については、国内ワクチン接種率の向上や今後の治療薬の開発など、感染拡大防止に向けた対応の進捗がみられるが、いつになれば感染状況が収束し通常の授業体制が可能になるのか、現時点において確実な見通しは立っていない。授業の準備としては、対面授業と遠隔授業のハイブリッド授業の実施体制を、比率を変えつつ維持し、対面授業を実施している場合も、感染拡大など緊急時にはいつでも遠隔授業に即応できる体制は維持していくことになると考えられる。

共通教育を含む大学の授業改革については、本年度最終報告にまとめられた「学位の質保証の在り方委員会報告」に対する対応策の検討を行っていく予定である。この中では、学位の質保証の観点で共通教育における各科目の課題および共通教育全体に関わるカリキュラムポリシーの設定が促されている。共通教育センターとしては、各部門および科目専門委員会での科目の課題にかかる検討と並行して、共通教育全体のカリキュラムポリシーに関する議論を進めていく予定である。その際、共通教育のカリキュラムポリシーの中には、学生にとっての4年一貫のカリキュラムという観点が必要となり、共通教育について考える場合も各学部との情報交換並びに情報共有が重要になってくると考えられ、適切な機会を設けて議論を進めていきたいと考えている。

Ⅱ. 初年次教育・教養教育部門 活動報告

令和2年度初年次教育・教養教育部門長 渡邊 弘

1. はじめに

初年次教育・教養教育部門は、共通教育センター所属教員のうち、人文・社会系、自然科学系の教員を構成員とし、初年次教育科目(体育・健康科目を除く)と教養教育科目の実施に関わる業務を担っている。部門の運営にあたっては、共通教育センターに属する他の部門・分科会と緊密に連携をとり、共通教育科目が全体として整合性のあるものとして実施されるように意を用いている。

2. 令和2年度の活動内容

令和2年度に本部門で扱った業務の内容は、次の通りである。

- 1. 新型コロナウイルス感染症の蔓延への対応
- 2. 初年次教育・教養教育部門会議での審議事項等
 - (1) 新型コロナウイルス感染症蔓延に対する対策
 - (2) 令和2年度(及び、それ以降)における初年次教育科目のあり方の検討
 - (3) その他、本部門が所管する科目に関する事項
- 3. 本部門が所管する科目相互、及び、他の共通教育科目の運営との調整
- 4. 時間割変更などに伴う対応
- 5. その他

3. 対応事項・改善事項等

(1) 新型コロナウイルス感染症の蔓延への対応

令和2年度は、前年末から世界的に流行が見られた新型コロナウイルス感染症が日本でも大きな流行となる兆候を見つつスタートした。

本部門としては、第一に、初年次教育科目・教養教育科目を履修する学生に、従前の方法(対面による授業など)とは異なる方法(例えばリアルタイム遠隔授業やオンデマンド遠隔授業など)を採らざるを得ない可能性があるという状況の下で、可能な限り最大の教育効果を上げるような方法を追求し、学生の教育に支障が生じることのないように努めた。特に、各学部・学科等ごとに定められている必修単位数に則り、学生が困難なく単位修得を進められるように意を用いた。第二に、大学全体の方針に則って学生・教職員の感染防止を図るとともに、その目標・内容から見て通常の方法による実施が困難な科目(例えば、国内外での実習が求められるような科目)の実施について慎重に判断し、必要な対応を行った。第三に、このような状況の中で、関係する教職員の激務をできるだけ緩和することができるよう、業務内容・方法の改善に努めた。

(2) 「初年次セミナーⅠ」「初年次セミナーⅡ」の継続的な改善

従前から継続的に実施している「初年次セミナーI」「同Ⅱ」について、「共通教育センター 初年次セミナーワーキンググループ」「総合教育機構初年次セミナーワーキンググループ」と 緊密な連携を保ちながら、その改善について必要な支援を行った。

(3) 学部学生の学位の質保証の在り方検討委員会への対応

学部学生の学位の質保証のあり方検討委員会において議論されてきた学位の質保証の具体的なあり方について、共通教育センター選出の当該委員会委員をサポートすると共に、初年次教育科目・教養教育科目における学位の質保証のあり方について、部門としての課題を明らかにするよう努めた。

4. 令和3年度へ向けた課題

第一に、新型コロナウイルス感染症の蔓延の収束が見通せない中で、学生に対する教育を最大限に保証するための方策について引き続き検討し、また、感染状況や社会環境の変化に機敏に対応することが求められている。第二に、学部学生の学位の質保証のあり方検討委員会の報告書の内容のうち、部門会議が主体的に検討・実施することが求められている事項について議論を進め、可能な点については速やかに実行することが必要である。第三に、認証評価受審年度であることに鑑み、全学の方針に沿って適切な業務遂行を図る必要がある。

Ⅲ. 教養科目分科会 活動報告令和2年度教養科目分科会長 渡邊 弘

1. はじめに

教養科目分科会は、本学の共通教育科目に属する科目群のうち、以下の科目群の運営にあたる ことを任務としている。

- · 教養基礎科目(人文社会科学分野)
- ·教養基礎科目(自然科学分野)
- 教養活用科目(統合Ⅰ・統合Ⅱ)

また、共通教育科目全体の運営・内容についても、上記科目群に関する事項を担当する立場から審議し、意見を述べる。本分科会は、上記科目群に属する諸科目が他の共通教育科目と連携しつつ、学士にふさわしい広く深い教養を学生に獲得させると共に、専門教育の基盤となる能力を涵養することを目指し、活動を展開している。

2. 令和2年度の活動内容

令和2年度に本部門で扱った業務の内容は、次の通りである。

- 1. 新型コロナウイルス感染症の蔓延への対応
- 2. 開設授業科目のよりいっそうの精選と体系化
- 3. 非常勤講師担当科目の精査
- 4. ゲスト講師招聘に関わる年度計画・授業計画の策定と内容の審議
- 5. 放送大学などとの連携に関わる業務
- 6. 「共通教育履修案内」等、学生指導に関わる文書の検討・改訂
- 7. 学部学生の学位の質保証の在り方検討委員会での検討事項の報告・対応
- 8. その他、上記「1. はじめに」に示した科目群に関わる事項

3. 対応事項・改善事項と今後の課題

(1) 新型コロナウイルス感染症の蔓延への対応

令和2年度は、前年末から世界的に流行が見られた新型コロナウイルス感染症が日本でも大きな流行となる兆候を見つつスタートした。

本分科会としては、第一に、従前の方法(対面による授業など)とは異なる方法(例えばリアルタイム遠隔授業やオンデマンド遠隔授業など)を採らざるを得ない可能性があるという状況の下で、所管する科目に関して可能な限り最大の教育効果を上げるような方法を追求し、学生の教育に支障が生じることのないように努めた。特に、各学部・学科等ごとに定められている必修単位数に則り、学生が困難なく単位修得を進められるように意を用いた。第二に、大学全体の方針に則って学生・教職員の感染防止を図るとともに、その目標・内容から見て通常の方法による実施が困難な科目(例えば、国内外での実習が求められるような科目)の実施について慎重に判断し、必要な対応を行った。第三に、このような状況の中で、関係する教職員の激務をできるだけ緩和することができるよう、業務内容・方法の改善に努めた。

(2) 開設授業科目のよりいっそうの精選と体系化

従前から継続的に実施している開設授業科目の精選と体系化について、全学の協力を得て、よりいっそうの進展を見ることができた。特に、科目の精選については数年来の努力によって概ね一定の成果を見るところまで来たように思われる。今後は、学部学生の学位の質保証のあり方委員会報告書などに基づき、大学執行部の方針や総合教育機構全体の方向性と平仄を合わせて、教養教育科目の目標等を含め、必要な検討を行い、改善を実施することが求められる。また、①本学全体の建学の精神や本学が地域社会で果たす役割に関わる科目の適切な開講、②多様性(ダイバーシティ)・社会参加・人権・平等などに関わる内容をもつ科目の適切な開講、③広く社会が大学ならびに本学に求める教育上の取り組みに対応する教育内容等について、これまでの積み重ねをふまえて、適切に対応する必要がある。

(3) 学部学生の学位の質保証の在り方検討委員会への対応

学部学生の学位の質保証のあり方検討委員会において議論されてきた学位の質保証の具体的なあり方について、共通教育センター選出の当該委員会委員をサポートすると共に、本分科会所管科目における学位の質保証のあり方について、分科会としての課題を明らかにするよう努めた。今後は特に、①共通教育科目に属する科目群として、本学学生が学士として共通に獲得すべき普遍的な能力を保証する教育のあり方を構想するとともに、②学生の教育要求に応え、教員の創造性・独自性・先進性を活かし、さらには学際性を重視した新しい教育の試みを実現することができる枠組みとして本分科会所管の科目群を構想することができるよう、引き続き議論していきたい。

(4) 高大接続システム改革への対応

高大接続システム改革や、本学の「大括り入試」実施、新学習指導要領の実施などに伴い、本学に入学してくる学生の状況が変化することが予想される。令和2年度は、これらの変化を予想・分析しつつ、主として低学年次に履修されることが多い科目群について、学生のレディネスを踏まえた形での科目設定ができるよう意を用いた。この点は令和3年度以降も引き続き議論し、具体的な方策を提案していきたい。

(5) 学外諸機関などとの連携など

本分科会は放送大学など学外諸機関とも連携しつつ業務を行っている。令和2年度においては特に放送大学との連携について、これまでの成果をもとにそのあり方に関する申合せ事項を明文化した。今後は、これまでの成果に基づいて学外諸機関などとの連携についてより発展させていくと共に、例えばゲスト講師の招聘などについても、遠隔授業の手法などを含めたより適切な教育方法を模索し、定着させていくことが求められている。

IV. 実験等科目分科会 活動報告 令和2年度実験等科目分科会長 藤田 志歩

令和2年度は新型コロナウイルス感染症への対応など、例年にはない課題が多く生じたため、 定例会議を含め計9回の委員会を開催した。主な審議事項は以下のとおりであった。

1. 令和2年度の活動内容

(1) 委員長、副委員長の選出方法について

分科会委員長および副委員長を1号委員(共通教育センター専任教員)の持ち回りとすることを確認した。

(2) 授業実施における新型コロナウイルス感染症への対応

鹿児島大学の授業実施方針に従い、原則として遠隔授業形式にて授業を実施した。前期に開講予定であった実験科目は開講時期を後期に変更し、また、感染予防策を徹底して対面授業を 実施した。

(3) 学部学生の学位の質保証の在り方検討委員会への意見書提出

学部学生の学位の質保証の在り方検討委員会(以下、検討委員会)での検討事項に対して、分科会から検討委員会へ意見書を提出した。意見の要点は以下のとおりである。1)高大接続や科学リテラシー涵養の必要性から、基礎教育入門科目(基礎統計学入門、基礎数学入門、基礎物理学入門、基礎化学入門 A、同 B、基礎生物学入門)の重要性を認識し、これら科目の位置付けを再検討すべきである。2)実験科目(基礎物理実験、基礎化学実験、基礎生命科学実験、基礎地学実験)は教職課程科目の認定を受けており、科目を維持する必要がある。3)実験科目の座学への移行は、自然科学の理解と習得に必要不可欠な学習機会を奪うことから、慎重に検討すべきである。

(4) 令和3年度以降実験科目開講期について

令和3年度より実験科目を集中講義で開講することとなり、この変更によって履修生に不利益が生じないように、各学部と調整をして開講の時期を決定した。しかし、学部間の日程調整が極めて困難であったことから、令和4年度からは通常開講期の可能性も含めて改めて検討を進めることとした。

(5) 令和3年度以降歯学部実験科目の専門科目への移行

実験科目が教育免許状取得希望者のみを履修対象とすることになったことを受け、令和3年度から歯学部実験科目が学部専門科目として開講されることが了承された。

(6) 令和3年度基礎統計学入門のクラス編成について

工学部学生対象の基礎統計学入門について、令和2年度は担当教員数が確保できないことから4クラス編成としたが、令和3年度は非常勤講師を含めて教員数を確保し、5クラス編成とすることが了承された。しかし、科目担当教員の慢性的な不足は続いており、根本的な解決策

が求められる。

(7) 基礎入門科目におけるティーチングアシスタント (TA) 雇用の要請

基礎入門科目における担当教員の不足により大規模クラスで授業が開講されていることから、効率的な授業運営のため TA が必要であった。これまで、基礎入門科目における TA 雇用の取り決めがなかったことから、共通教育センターに要請して規則改正が行われ、令和3年度からは TA が雇用できることになった。

2. 今後の課題

(1) 学位の質保証の在り方検討委員会報告書への対応について

上述のとおり、分科会から学位の質保証の在り方検討委員会に対して意見書を提出したが、 基礎入門科目および実験科目の位置付けおよび扱いについて、関係部局ならびに共通教育センターと協議を続ける。

(2) 基礎入門科目の担当教員について

基礎入門科目担当教員の確保が困難な状況が続いている。理由として、一つは、共通教育センターに数学、統計学および自然科学系の専任教員が配置されているものの、全学必修科目(初年次セミナーI、同II、大学と地域など)担当の比重が大きく、基礎入門科目に十分に寄与できていないことが挙げられる。もう一つは、基礎入門科目は専門科目への導入の目的から複数の学部で必要とされているが、全学的な協力体制が必ずしも構築されていないことが挙げられる。鹿児島大学がすすめる学術研究院制度の実質化を図るなど、全学的な視点での教育課程の見直しが必要であると考えられる。

(3) 教養教育科目(自然科学分野)の精査について

基礎教育入門科目(選択必修)と教養基礎科目(選択)に類似の科目が開講されている。共通教育課程における科目の精査、ならびに各分科会が所掌する科目の整理が必要である。また、各学部と連携しながら、カリキュラムマップにおける共通教育課程科目群の整理も必要であると考えられる。

V. 情報科目分科会 活動報告 令和2年度情報科目分科会長 富山 清升

1. コロナ症 (COVID-19) 蔓延状況下の「情報活用」の授業展開

COVID-19の全国的な蔓延状況の結果、鹿児島大学の全体方針に従い、全学必修科目「情報活用」(前期)の授業は、令和2年度は、全面的に遠隔授業に切り替えた。各学部・学科ごとの個別事情に合わせ、遠隔授業を実施した。

2. 数理データサイエンスの全学必修化に伴う授業の実施

数理データサイエンスを全学必修化が令和2年度から実施された。具体的には、「情報活用」の2コマ~4コマ程度の授業を利用して、数理データサイエンスの授業を展開した。

3. 令和3年度「情報活用」の授業を実施するにあたっての基本方針

2020年11月16日(月)付けで、情報科目分科会名で、令和3年度「情報活用」の基本方針を策定した。

4. 数理データサイエンス教育 九州ブロッック・ワークショップへの参加

11月30日に、数理データサイエンス教育 九州ブロッック・ワークショップが遠隔講演会形式で開催され、情報科目分科会委員長が参加した。文部科学省高等教育局専門教育課情報科目係の数理データサイエンス教育担当者の講演も行われ、情報交換を行った。

5. 数理データサイエンス AI 教育認定プログラム(MDASH)の公募

2021年2月に文部科学省より、数理データサイエンス AI 教育認定プログラム(MDASH)リテラシーレベル、および、MDASH リテレラシーレベル・プラスの募集要項が公開され、鹿児島大学としては、MDASHへ応募する事を検討した、しかし、公募要項発表から締め切りまで2ヶ月足らずしか時間が無く、学内の諸手続きを考慮の末、令和3年度の応募は断念した。令和4年度の応募を目指し、情報科目分科会の中に、共通教育センター長指名によりワーキンググループを形成し、MDASHへの応募を検討していくことになった。

6. 学位の質保証検討委員会の答申に対する対応

「学位の質保証検討委員会」の出した答申に沿って、令和3年度は、全学必修科目「情報活用」 の在り方に関して検討していくことになった。

(1) 統一シラバスの策定

現在、全学必修科目「情報活用」は、各学部学科ごとにシラバスが異なる状況で、教授内容も学部学科ごとに異なっている。「情報活用」に関しては、全学統一シラバスを策定し、教授内容の統一化をはかることになった。令和3年度に全学統一シラバスを検討し、令和4年度から実施することになった。

(2) 全学必修科目「情報活用」の中の専門的内容の学部専門教育への移管

「情報活用」において、特に、工学部は各学科ごとに教授内容もかなり異なっており、専門的な部分も多かった。令和3年度より、工学部では数理データサイエンス科目が学部必修とな

り、結果として「情報活用」の中で教えられていた専門的教授内容多くが、学部専門科目に移管された。学位の質保証検討委員会の答申で出されていた、『全学必修科目「情報活用」の中の専門的内容の学部専門教育への移管』の問題は、ほぼ達成されたと考える。工学部以外の学部においては、全学必修科目「情報活用」の教授項目は、基本的な内容であり、特に学部特有の専門的内容が教授されていないため、学部専門教育への移管は特に必要無しと判断された。

(3) 全学必修科目「情報活用」の評価について

全学必修科目「情報活用」の評価は、全学教務委員会が出した方針にそって、全学で共通な 評価を行っていくことになった。

VI. 日本語・日本事情科目分科会 活動報告 令和2年度日本語・日本事情科目分科会長 和田礼子

1. 本年度の主な活動内容

本年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、遠隔授業の実施、未入国留学生への対応など、 例年にない活動を行った。

(1) 新入学部外国人留学生について

令和2年度学部新入留学生は29名だった。学部新入生の国籍、学部の内訳は表1のとおりである。

	法文	教育	理	エ	農	提共	水産	医	歯	計
韓国	1		1	4	5		1			12
中国	3		2	5	1		1			12
ベトナム					3(3)		1(1)			4(4)
マレーシア				1						1
計	4	0	3	10	9(3)	0	3(1)	0	0	29 (4)

表1 令和2年度学部新入留学生所属:国籍内訳

(2) 新入学部留学生の入国状況について

「新型コロナウイルス感染症に関する水際対策措置」のため、新規の留学ビザの発行が停止されたことにより、学部新入留学生のうち12名が11月まで入国できない状態が続いた。入国できなかった留学生の学部と国籍の内訳は表2のとおりである。

	法文	理	I	農	水産	計
韓国			2	3	1	6
中国				1		1
ベトナム				3(3)	1(1)	4(4)
マレーシア			1			1
計	0	0	3	7 (3)	2(1)	12 (4)

表2 未入国の学部新入留学生所属・国籍内訳

(3) 新入学部留学生を対象としたアンケート調査の実施

5月末に、新入留学生を対象に、アンケート調査を実施した。調査は「授業、勉強について」と「その他」の項目に分け現在の状況、困っていることなどを自由記述の形式で記入するもので、日本語のほか母語での回答も可とした。

留学生の回答には「課題に追われている」「うつ傾向にある」「ほとんどの時間を家で費やしている」といった記載が見られ、特に未入国生は「インターネットの回線が途切れる」「教科書が手に入らない」という問題を訴えていた。このアンケート結果は共通教育センターや留学生が所属する学部と共有した。

^{*()}は内数で国費学部留学生

^{*()}は内数で国費学部留学生

(4) 日本語・日本事情科目の実施状況

・日本語・日本事情科目を表3のとおり実施した。

表3 令和2年度日本語・日本事情科目の実施状況

	日本語科目	日本事情科目			
1期	日本語I(1単位) プレゼンテーション				
(1年前期)	日本語Ⅱ (1 単位) 作文 1 (基礎・表現)	日本事情 A(2 単位)			
第3ターム	日本語Ⅲ(1 単位) 作文 2				
(1年後期)	(資料分析・レポート作成)	日本事情 B(2 単位)			
第4ターム	日本語IV(1 単位) 総合日本語:	口本争情 D (2 单位)			
(1年後期)					

- ・令和2年度日本語・日本事情科目はすべて、Zoom を利用し遠隔授業を行った。
- ・プレースメントテストをオンラインで受験できるよう対応した。
- ・日本事情 A.B は留学生の所属する学部によって理系と文系に分けて開講した。
- ・日本事情(理系学部対象)の開講時間に国際食糧資源コース(農・水産学部)の必修科目が重複して開講されたため、当該学生は日本事情(文系学部対象)を受講した。

(5) 初年次セミナーⅠ・Ⅱの学習内容変更への対応

学部留学生は初年次セミナーIを必修科目として履修するが、初年次セミナーIIは履修しない。従来の初年次セミナーIIではプレゼンテーション及びレポート作成を行っていたが、これらは言語学習的要素が強いため、日本語II、IVで作文、レポート作成、日本語IIでプレゼンテーションに必要なスキルを身に付けるためのカリキュラムを実施していた。日本人学生が初年次セミナーIIで学習するアカデミックスキルについても、これらの授業で取り扱っていた。

しかし、令和2年度は学習内容の見直しが行われ、初年次セミナーIで話し合い、レポート作成を行い、初年次セミナーIIではプレゼンテーションに加え、「社会からの要請に焦点化した教育(焦点化教育)」が行われることになった。これに対応するため、日本語科目は表3のように学習内容を変更し、日本語IVでは初年次セミナーIIの焦点化教育で使用される教材を用いて授業を行った。焦点化教育で取り扱われた「税とデモクラシー」「生活者に求められる知識」など、外国人留学生にとっては背景知識の導入が必要なテーマもあったため、教材を追加するなどして対応した。焦点化教育は、令和3年度以降は初年次セミナーIで扱われるため、留学生は日本人学生とともにこれを履修する。

2. 令和3年度日本語・日本事情科目実施計画

令和3年度日本語・日本事情科目を以下のとおり実施する。

表 4 令和 3 年度日本語・日本事情科目 実施計画

1期(1年:前期)	2 期(1 年:後期)			
1 初(1 午・別利)	第3ターム	第4ターム		
日本語 I (1 単位) 日本語 II (1 単位)	日本語Ⅲ(1 単位)	日本語IV(1 単位)		
日本事情 A(2 単位)	日本事情 B	(2 単位)		

Ⅵ. 学芸員資格科目分科会 活動報告 令和2年度学芸員資格分科会長 日隈 正守

学芸員資格科目分科会では、関係部局(法文学部、教育学部、理学部、水産学部、共通教育センター)と鹿児島大学総合研究博物館とで、メール会議を含む計4回の会議を開催した。昨年度と同様、学芸員資格に関する各科目の実施や夏季休暇中に各学部毎に行われる博物館実習の受け入れ先調整などについて話し合い、学芸員資格に関する各科目や学部毎に行われる博物館実習を円滑に実施する事ができた。

他方昨今非常勤講師費用節約のため、非常勤講師雇用を県内在住者に限定する事が奨励されている事から、潜在的な非常勤講師候補者が大変少ない。また今まで雇用してきた非常勤講師には70歳以上の高齢な方がおられるが、それに代わる人材の確保が困難で、そのような人材確保が以前から大きな課題となっている。今年度「博物館資料論」を一部担当されていた方が本学を定年退職されたので非常勤講師として依頼する事になったり、「博物館展示論」や「博物館教育論」を担当されていた方が70歳以上になられたので、60歳代以下の方に担当を依頼した。今年度は、何とか非常勤講師の年齢の原則を守りながら後任者を確保する事ができた。しかし学芸員資格科目に関する非常勤講師確保は中々難しく、毎年綱渡りに近い状態である。

学芸員資格科目に関して安定的に非常勤講師を確保していくためには、県内の博物館関係者の掘り起こしと現職の学芸員に本学の学芸員資格科目について非常勤講師を依頼できるように、本学と当該学芸員の所属する博物館の間で条件整備のための協議を粘り強く行う必要があると思うし、私見ではあるが時と場合によっては年齢については弾力的に考えていく必要があるのではないかと思う。

今年度はコロナ流行により、博物館実習も大きな影響を受けた。博物館実習事前指導の一環として実施されている本学総合研究博物館での学内実習は、3密を避けるために5月に実施する予定を、学生達が博物館で実習する8月よりも後の後期に実施する事になった。また各学部の博物館実習事前指導の中で史料に関する授業は、遠隔授業で行われる場合もあった。コロナ流行を睨みながら、従来博物館実習事前指導の中で取り扱われていた内容を如何にして行うか、手探り状態で行った1年であった。

共通教育として実施される学芸員資格科目は、原則6期までに取り終える必要がある。しかし 各科目の開設曜日や設定時限が各学部の各種必修科目と重なる場合や編入学生のように学芸員資 格科目を6期までに取り終える事が困難な場合もある。この様な場合、学生側に責任があまり無 い場合等どのように対応していくかは今後の課題であると考えられる。関連の諸委員会等と連携 して、学芸員資格取得を目指す学生達が博物館実習を行い資格を取得できるようになる事を待望 している。

一. 体育・健康教育部門活動報告令和2年度体育・健康教育部門長福満博隆

1. 令和2年度の主な活動内容

(1) 体育・健康科目の授業について

体育・健康科学実習では、令和3年度の実習ノートの改訂を行った。また、非常勤講師を含む体育・健康科学実習担当教員を対象に令和3年度に向けた研修会を以下の内容で行い、共通理解を図った。

- ① 実習の学習目標と学習内容および評価についての確認 (統一を図るために)
- ② 新型コロナウイルス感染防止対策を踏まえた授業実施について
- ③ 実習ノートの改訂についての説明
- ④ ニュースポーツの指導方法について(模擬授業を実施) 一方、非常勤講師の担当コマ数は、令和元度の体育・健康科目の33コマから令和2年度は27コマと6コマ減らした。

(2) 新入生の心身の健康に対する働きかけ

manaba のアンケート機能を用いて、令和 2 年度新入生に対して 5 月から 4 回(8 月、10 月、2 月)にわたり、ストレスチェックを行い、その結果報告と解説を通して日々の生活の中で、自分の健康を守るための実践に活用してもらえるように働きかけ、授業内でも活用した。自主的に実践するための参考資料として、「運動のすすめ」及び「良眠のすすめ」と題した具体的な実践方法をコンテンツに掲載した。

(3) 体育・健康科目に関する研究的取り組み

体育・健康科学実習の遠隔授業で取り扱ったストレッチ運動が初年次学生の心身に及ぼす 効果を検証した。その結果、遠隔授業であっても、受講学生の快感情が高まり、不安感が低 下することが明らかとなった。文部科学省の危惧する、コロナ禍における健康二次被害を予 防するためにも、今回用いた授業コンテンツが有効であったことが示唆された。

(4) 体育・健康科目に関する施設設備の管理

- ① 第2体育館では、以下の新型コロナウイルス感染防止対策を行なった。
 - ・トレーニング室、男女更衣室(シャワー室含む)の利用禁止(ただし、体育実習授業で 更衣室部分のみを条件付きで一時開放)
 - ・玄関前にアルコール消毒液ボトルを配備し、出入りの際の手指消毒を促した。
 - ・2階フロアや卓球室を利用する課外活動団体等は、利用者名簿に記入するように指導した。
 - ・保健所からの指示により冷水機・製氷機の利用を禁止した。
 - ・運動用具は、全面貸し出し禁止とした。
 - ・男女トイレの洗面所に手指消毒液ボトルを配備し、各トイレにシートクリーナーを配備
 - ・事務室窓口にアクリルパーティーションを設置した。
- ② 実習関連の体育器具、施設設備の巡視および安全確認を定期的に行い、老朽化した体育器具等を更新した。

- ・靴箱を更新(24人用14台)(旧2台をトレーニング室と1Fロビーへ設置)
- ・冷水機・玄関ドアステンレス部分の清掃 (外注)
- ・男女更衣室に全身鏡(計6枚)を設置した。
- ・トレーニング室は、トレーニングマシン(パワーラック1台)を更新し、反復横跳び用マット(1枚)とエクササイズマット(5枚)を設置した。
- ・2階フロアは、バスケットゴール(4台)を更新した。
- ・防犯カメラを3カ所増設した。
- ③ 第2体育館において下記の補修とメンテナンスを行った。
 - ・駐輪場(北側・南側)の屋根・支柱・補助バー・雨樋の補修
 - ・玄関前の白線・自転車マーク(駐輪エリアを表示)を補修
 - ・フロア、トレーニング室、卓球室の床の洗浄(外注)
 - ・観覧席床、棚の清掃、洗面台の清掃(外注)

2. 体育・健康科目に関する今後の課題

(1) 体育・健康科目の授業について

- ① 体育・健康科学実習の成績評価の問題も含めて、指導内容に教員間でばらつきが生じない配慮が必要である。非常勤講師を含めて担当教師の指導が極力一致するよう教員間の意思統一を図る。
- ② 体育・健康科学理論について、講義内容の精選と教員間での授業内容及び評価の統一、 学生による能動的学習が行われることを目指して、定期的な授業検討会を実施していく。

(2) 体育・健康科目に関する研究的取り組み

授業内で得られる体力・運動能力のデータを活用して、学生の体力の現状や授業効果を明らかにし、分析結果を公表する。また、令和2年度新入生に行った新入生ストレスチェックの1年間の結果をまとめたものを今後公表する。

IX. 外国語教育部門 活動報告 令和2年度外国語教育部門長 原 隆幸

令和2年度の外国語教育部門活動を振り返ってみると、新型コロナウイルス感染症に対応した 授業の対応に追われた一年であった。今回は、1. 体制について、2. 新型コロナウイルス感染 症への対応について、3. 現場についての3点に関して、簡単に紹介していく。

1. 体制について

平成30年度から組織が外国語教育部門となった。この体制が令和2年度もそのまま継続となったため、安定した組織運営となった。

ただ、任期をあと1年残し、外国語教育部門長が副センター長になったため、新たに外国語教育部門長が就任し、任期2年目の副部門長と前部門長の助言を仰ぎながら運営を行ってきた。原則毎月対面にて行ってきた外国語教育部門会議は、9回中8回をメール審議にて、1回をオンラインで開催した。それまで毎月行ってきた英語ミーティングもこれまでの対面から Zoom を使用して8回開催した。初修語もミーティングを開催するなどの対応を求められることが多い1年となった。メール会議や遠隔会議を行った理由として、教員の感染症対策と一部の教員がテレワークの実施を希望し、対面での会議開催が不可能になったことが挙げられる。

2. 新型コロナウイルス感染症への対応について

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症を気にしながら始まった。当初は例年通り対面授業が行える、または少し様子を見て1~2週間後から対面授業を行えると思っていたが、4月中旬に前期は遠隔授業の実施が決まった。遠隔授業が決定されると、教員は授業計画や授業内容の見直しを求められ、対応に追われることとなった。英語教員は4月上旬に臨時英語ミーティングを開催し、現状の共有を行うと共に、manabaを活用した授業の行い方や Zoom の使用方法を学んだ。初修語教員もお互いに学び合いながら授業への対応を行っていった。また、高等教育研究開発センターと事務職員と協力し、専任教員だけでなく、非常勤講師にも manaba と Zoom の講習会を数回開催した。講習会に参加できなかった外国語非常勤講師に対しては、個別に対応し、先生方に遠隔授業への対応をサポートした。その上で、大学より「オンライン授業講義の実施について」という資料が提示され、そこから遠隔授業の形態を選び、授業を行うようになった。これに対しても全ての教員が問題なく授業ができるようにサポートを行った。

当初は授業を行うに際に、困難なことも多かったが、英語教員は協力し合い、情報交換し合いながら、できるだけ対面とそん色のない授業運営を目指した。初修外国語教員は、英語教員にはない苦労が多かった。初修語は大学に入ってから初めて学ぶ外国語のため、通常は対面授業で教員が発音の仕方や文字の書き方などを少しずつ教えながら、授業を行っていた。また、宿題を通して文字を習得し、小テストなどを通して単語などを覚えていくが、それらが行えない状況になったため、短い動画を撮りオンデマンドの授業を行ったり、Zoomを使用して授業を行ったりするなど、授業を行うに際し、多くの工夫が求められた。中間・期末テストに関しても対面での実施が難しく、遠隔での実施かレポート提出等での対応が求められ、苦労が多かった。

後期は10月と12月にスクーリング期間が設けられ、対面での授業を $1\sim2$ 週行うことが決まった。ただし、教室では学生は間隔を空けて座るようになっていたため、外国語教育で通常行って

いた会話練習やペアワーク、グループワークなどが行いにくい状況は続いた。そのため、感染症対策を気にしなくても行える Zoom での授業を行う教員が後期は前期より増えた。また、Zoom での授業では学生は同じ授業を履修している学生とも話し合いができる利点もあり、学生間や学生と教員間の信頼関係の構築にも役に立った。

教科書購入と使用に関しても通常と異なる対応が求められた。前期に、県を跨いでの移動が制限されており、大学は県外からの学生に対し、大学の入学式が始まる前に引っ越して2週間待機するように周知していたにも関わらず、県外の実家に居続けて大学に来ることができない学生がいることがわかり、そういった学生への教科書購入と未入国留学生の教科書購入に関して、生協の担当者と話し合いを行ったり、出版会社と連絡を取ったりして、テキストのデータを学生に提供するなどの対応を行った。

3. 現場について

上記2で述べたような形で、通常とは異なる授業運営を強いられる1年となった。

英語に関しては、遠隔でEF SET(外部英語試験)を前期と後期に1回ずつ実施し、その結果を成績の一部に組み込み、後期試験の結果は2年次の英語皿のクラス分けに活用した。また8月にFD 研修会を開催し、遠隔授業での対応策やヒントを話し合い、参加者と意見交換を行い、後期授業に備えた。その他、外部試験単位認定の見直しを行い、現状に合う形での英検を加えるに至った。また、センター長より依頼を受け、「鹿児島大学の英語教育を良くするための案」を検討し、資料を作成の上、センター長に説明を行った。

LOL に関しては、全て Zoom での実施となった。そのため、前期は準備の整った言語のみ実施し、後期は英語と初修語において Zoom で予定通り行うことができた。

令和2年度の外国語教育部門活動は、上記に記したとおりである。字数が限られ、すべての活動について書けないが、主な活動について触れた。これまでにない対応に追われた年であったと言える。今後の課題としては、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた授業の在り方や学生に不利益が被らないような授業を続けて検討していきたい。また、教員の定年退職に伴うコマ数減少をどのように補っていくのかも大きな問題となる。さらに、外部試験単位認定規則をさらに見直し、柔軟な対応ができるように検討していきたい。

キャリア形成支援センター

キャリア形成支援センター

活動報告

I. キャリア形成支援センター概要

キャリア形成支援センターは、全学的なキャリア形成支援体制のもとで、キャリア教育及びインターンシップを含めたキャリア形成・就職支援を充実・推進し、学生の多様なキャリア形成を 支援することを目的とし、令和2年4月1日に設置された。

1. 主な業務内容

- ●キャリア教育の研究開発・実施
- ●キャリア・就職支援の企画立案・実施
- ●インターンシップの企画立案・実施
- ●鹿児島大学地域人材育成プラットフォーム (かごしまキャリア教育プログラム)の運営及び実施
- ●学生(卒業者及び中途退学者を含む)へのキャリア・就職に係 る指導助言
- ●キャリア教育やキャリア・就職支援、インターンシップ等に関する調査・分析及び報告
- ●求人その他の就職及びインターンシップ情報の収集・提供
- ●「大学地域コンソーシアム鹿児島」の「地域連携・就業部会」の運営

2. 運営体制

専任教員(主にキャリア教育担当) キャリア形成支援センター長(兼務) — 専任教員(主にキャリア・就職支援担当) 特任教員(主にインターンシップ担当)

Ⅱ. 令和2年度の主な活動内容

- 1. キャリア教育
- (1) 地域人材育成プラットフォーム「かごしまキャリア教育プログラム」

キャリア形成支援センターは、総合教育機構が運営する「地域人材育成プラットフォーム」の「かごしまキャリア教育プログラム」を担当しており、本センターの教員が中心になってキャリア教育プログラムワーキンググループ(以下「キャリア PWG」)を運営している。「かごしまキャリア教育プログラム」は、学部(研究科を含む)では実施困難な全学部の学生を対象とする学部横断的な教育であり、体系的なキャリア教育プログラムとして1学年から3学年までの一連の連続した教育システムであるとともに、課題解決型学習(PBL)のインターンシップを組み込んだキャリア教育としてトータルにデザインされている。地域企業の課題解決型学習(PBL)という、ハイレベルなインターンシップへと到達できるのは、初年次から積み上げた知識と能力とに支えられているところが大きい。

上記の「キャリアPWG」における検討事項は次の通りである。





●「地域人材育成プラットフォーム」の「かごしまキャリア教育プログラム」の開発および実施 /運営、報告

キャリア PWG の検討対象となる授業は、「キャリアデザイン(前期)」「キャリアデザイン(後期)」「社会人基礎力演習」「地域キャリアインターンシップ事前演習」「地域キャリアインターンシップ修了演習」である。今年度は、新たに設けられた「社会人基礎力演習」の開発や、「地域人材育成プラットフォーム」の3つのプログラムの全履修生を対象として実施される成果報告会についての議論が中心となった。「社会人基礎力演習」は、「かごしまキャリア教育プログラム」の「コア科目」としての一連の教育プログラムの要であり、初年次教育と実地研修とをつなぐ架け橋としての役割もあり、内容の策定に多くの時間を費やし難航したが、社会人基礎力の理解のため、経営学的アプローチやケースワークを導入することで完成した。

また、以上の授業を運営するために、総合教育機構内の共通教育センター、高等教育開発研究センターなどの協力を得る運営体制についての議論も行った。

●学部(研究科含む)におけるキャリア教育およびインターンシップの実施状況の把握についてキャリア形成支援センターでは、学部(研究科を含む)におけるキャリア教育およびインターンシップの実施状況や教育内容についての把握が課題となっており、これについての検討を開始した。キャリア教育については各学部(研究科を含む)のシラバスレベルでの把握は可能であり、また、インターンシップについても大学を通じた実施状況の情報収集や把握は可能である。しかし、キャリア教育の要素を併せ持った授業の把握や、学生が個人で申し込む公募型インターンシップの参加状況となると、データに不足があることは否めない。そこで、全体像をつかむためのリソースや、データを収集する枠組み、あるいはシステムについての議論を重ねた結果、学生の著作物や活動成果を蓄積したポートフォリオに、インターンシップ経験やキャリア教育の履修実績を追加し、その結果を効果的に出力できるシステムの構築に期待が集まった。すでに存在する LMS との連携もあり、全学的な教育システムとなることが想定されるため、今後検討が進められる中で、キャリア形成支援センターも必要に応じて議論に参加していく予定である。

(2) 正課外のキャリア支援イベントと連携した低学年からのキャリア形成

「かごしまキャリア教育プログラム」のスタートアップ科目である「キャリアデザイン」の授業の一部に組み入れ、或いは授業の中で教員から参加を促したことにより、以下の表に示すとおり、全学年対象の正課外キャリア支援イベントへの低学年次生の延べ参加者は、令和元年度の約3倍となる684名と大幅に増加した。

全学年対象の主なキャリア支援イベント	低学年の参	加者数(名)
主子中別家の主なイヤリノ文抜イベント	令和2年度	令和元年度
Web インターンシップ合同企業説明会	126	24
中小企業の魅力発見講座	16	11
卒業生によるキャリア支援セミナー (1回)	98	29
進路ガイダンス	49	45
Web 業界研究フェア(県内企業・団体)	191	100
Web 業界研究フェア(県外企業・団体)	204	123
合 計	684	232

2. キャリア・就職支援

令和2年度のキャリア形成支援センターによるキャリア・就職支援の取組みの一覧と学生の参加状況等については、表1(令和2年度キャリア形成支援センター事業実施状況:P39)のとおりである。本節では、就職・キャリア支援イベントの開催、就職・進路相談、求人情報の提供、学内外への広報について概要を報告する。

(1) 就職・キャリア支援イベント

●ガイダンス・支援講座等

学部3年生・大学院1年生を対象に、年間6回の就職ガイダンスと4回の少人数・実践的な就職支援講座を開催した。新たな取り組みとしては、近年ますます重要になっているインターンシップへの参加の効果を高めるため、事前対策のガイダンスや参加後の振り返り講座を企画したほか、オンライン選考の増加を踏まえ、動画・Web 選考対策も支援講座に導入した。なお、新型コロナウイルス感染症予防のため、4、5月の第1回、2回の就職ガイダンスは動画オンデマンド配信し、後期の第4~6回ガイダンスはLIVE形式で実施する一方、少人数の支援講座については、感染予防対策を行った上で可能な限り対面で行うなど柔軟に対応し、学生の視聴・参加数も前年を上回った。

そのほか、学部4年生・大学院2年生を対象とした2回の就活応援講座と個別進路相談会、 学部1、2年生対象の進路ガイダンスを開催し、前年度並みの学生の参加があった。

●企業セミナー (説明会) 等

新型コロナウイルス感染症の影響で、コロナ前は年間を通して開催していた個別企業説明会など対面での実施は大幅に減少したものの、オンライン形式も含めた合同・個別の企業セミナー(説明会)や業界・職種研究セミナー、中小企業の社長を招いての交流イベント等に、前年度を上回る延べ443社が参加し、学生の参加も1,722人となった。

【全学年対象】

- ·Web インターンシップ合同企業説明会
- ・10回の業界・職種研究セミナー
- ・6社の県内企業の社長を招いての中小企業の魅力発見講座
- ・2日間の Web 業界研究フェア

【学部3年·大学院1年対象】

- ・3日間の講義形式の学内個別企業セミナーフェア
- ・中四国・九州の国立大学生対象 Web 合同企業説明会

【学部4年·大学院2年対象】

- ・年間随時開催の学内個別企業説明会
- · 県外企業による Web 合同企業説明会
- ・県内企業によるブース形式の学内合同企業説明会
- · 3大学限定/8大学限定 Web 合同企業説明会

●卒業生による就職・キャリア支援セミナー

大手企業等に勤務する若手卒業生4人による就職支援セミナーをオンライン開催したほか、同窓会連合会の協力で、多彩な分野で活躍する卒業生6人によるキャリア支援セミナー







「きばいやんせ、鹿大生2020!」も会場と遠隔の学生をオンラインで結んで開催した。毎年 開催しているこのキャリア支援セミナーは、共通教育科目「キャリアデザイン」と連携して おり、受講生を含めて104人が参加した。

(2) 就職・進路相談 (表2参照:P40)

本学の法文学部 OB である以下の就職相談員に加え、ハローワークの就職ナビゲーター 2 人の計 3 人が、学期中はほぼ毎日学生の就職や進路に関する相談に対応している。

4月下旬からの緊急事態宣言発令期間や11月下旬の本学におけるクラスター発生時、また、年明けからの大学入試前の時期には、対面での個別相談を中止し、オンラインやメール、電話等で対応したが、年間の相談件数は前年度とほぼ同様であった。

【就職相談員】原口一陽 氏(前㈱南日本新聞社 東京支社次長 兼 営業部長)

(3) 求人情報の提供(表3参照:P41)

令和2年度にキャリア形成支援センターで受け付けた求人件数は表3のとおりである。センターに届いた全国からの求人は、求人検索システムのデータベースに入力し、学内外から学生や卒業生が求人情報を検索できるようにしている。さらに、求職登録している最終学年次生や卒業生には、希望条件に近い求人が届いた場合、その日のうちに自動メールが送付される(求職登録制度)。令和2年度にこの求職登録制度を利用した在学生及び卒業生は合計130人であった。また、センターで受け付けた求人票は、対象学部にコピー等を送付するとともに、県内・県外に分け、さらに業種別・五十音別にファイリングして、来室した学生が閲覧できるようにしている。

なお、求人件数はコロナ前から減少傾向にあり、昨年度センターで受け付けた求人件数が前年度より約15%減少した要因としては、新型コロナ以上に、採用活動の早期化が進み、求人情報が公開される3年生の3月より前のインターンシップや企業研究等の早期イベントからの採用が増えた影響が大きいと思われる。

(4) 学内外への広報

キャリア形成支援センターから昨年度発行した定期刊行物は以下のとおりである。

発行時期	名 称	形 態	配布対象・方法等
6月中旬頃	就職支援ガイドブック	冊子	学部3年生・大学院1年生に学部やセンター
		電子ブック	で配布
2月上旬	求人のための大学紹介	冊子	全国の企業・団体約 1,100 社程度に郵送
4月上旬	キャリア形成支援セン	三折リーフ	入学式の配布物として新入生や保護者に配布
	ター	レット	し、センターと各学部の就職支援室(コーナー)
	案内リーフレット		等に設置。県内高校長との教育懇話会でも配布
毎月1回	「キャリア形成支援セン	A4 サイズ	センターに設置するとともに各学部で掲示
	ターからのお知らせ」	1枚	就職ガイダンス等でも配布

以上のほか、入試広報用の「受験生のための大学案内」や、 広報センター発行の保護者向け「鹿大だより」と大学概要、学 生生活課が発行している学生便覧に毎年原稿を提出しており、 報道機関の取材にも随時対応している。



表 1

令和2年度キャリア形成支援センター事業実施状況 (キャリア教育、インターンシップ窓口担当事業を除く)

R3.3.31現在

	and the state of t		.31現在
月日	事 業	参加状况	(前年度)
【ガイダン】	ス・支援講座/就活応援講座】		
1月6日	<u>・進路ガイダンス(WEB)</u>	学生 49人	(45)
4月22日	・第1回就職ガイダンス (動画オンデマンド配信) 「就活スタートアップ〜どうなる?2022年卒の就職活動」	学生3226人	(333)
5月20日	・第2回就職ガイダンス「インターンシップ選考対策&業界(企業)研究」(Mana オンデマンド配信)	学生843人	(260)
10月7日	第3回就職ガイダンス「公務員希望者向けガイダンス」①人事院九州事務局②九州財務局③熊本国税局④鹿児島労働局⑤鹿児島地方・家庭裁判所	学生 100人	(84)
12月9日	・第4回就職ガイダンス「エントリーシート対策」(Web)	学生70人	(122)
12月23日	・第5回就職ガイダンス「面接対策&就活ストレス対処法」 (Web)	学生45人	(83)
1月20日	・第6回就職ガイダンス「直前準備対策~2月からの攻め方」(Web)	学生97人	(137)
8月11日	・ 就職支援講座 I 「就活マナー実践」	学生 96人	(96)
10月21日	・就職支援講座Ⅱ「インターンシッフ振り返り講座」	学生 53人	(-)
1月20日	・就職支援講座Ⅲ「動画・Web選考対策」	学生 78人	(-)
<u>2月15~17日</u>	・就職支援講座IV「模擬面接会」(3日間)・就活応援講座I「公務員・教員受験者向け集団討論対策」	学生 47人	(52)
6月17日 7月8日	- 就活応援講座Ⅱ「就活見直し講座」	学生 23人 学生 19人	(2 <u>5)</u> (19)
11月18日	- 個別進路相談会		(2)
11/3100	参加学生数累計	学生4750 人	(1448)
7 00 80	(前年度累計には、本年度開講のない事業の参加者数を含む)	3 14100 /	11710
【合向・単名	独企業セミナー(説明会)、業界・職種研究セミナー、卒業生によるセミナー等】 「	企業62社	(72)
4月~3月	・学内における個別企業説明会(随時)(※3年・院1年対象の説明会は3月以降)	学生87人	(111)
6月24日	・鹿大生のためのWebインターンシップ合同企業説明会	企業16社 学生361人	(42) (280)
7月15日	・県外企業によるWeb合同企業説明会	企業 17社 学生 41人	(-)
8月19日	・県内企業による学内合同企業説明会(ブース形式)	企業 20社 学生 20人	(20) (15)
8月19日	 3大学限定Web合同企業説明会 	企業 8社	(-) (-)
9月25日	• 8大学限定Web合同企業説明会	企業 21社 学生 15人	(-) (-)
10月~2月	・業界・職種研究セミナー(随時)	企業 18社 学生 176人	(38)
		企業6社	(6)
11月4日 12月5日	・中小企業の魅力発見講座「社長と語ろう」	学生24人 回数 2回	(26) (2)
1月14日	・卒業生による就職・キャリア支援セミナー (Web)	学生 116人	(53)
12月26日	- Web業界研究フェア(県内企業対象)※官公庁も一部参加	企業51社 学生275人	企業 (148)
1月9日	· Mah業用可究フェフ(目外个業就会)※京小庄夫一部会加	企業98社	学生 (664)
	・Web業界研究フェア(県外企業対象)※官公庁も一部参加 	学生293人 企業52社	(61)
3月3日~5日	・学内個別企業セミナー・フェア(講義形式・3日間)	学生324人 企業78社	(372)
3月15日~19日	・中四国・九州の国立大学生対象 Web合同企業説明会	学生30人	(-) (-)
	参加企業数累計	443社	(398)
	参加学生数累計	学生1722人	(1792
【キャリア	教育・就職情報冊子】		
6月上旬	・学生向け就職冊子「就職支援ガイドブック」発行	3年·院1年	= ヘ配布
2月上旬	・企業向け就職関係冊子「求人のための大学紹介」発行	企業1160社	
	キャリア形成支援センターリーフレット発行		
毎月1日	- ・・ 学生向け就職情報 「キャリア形成支援センターから」発行		
【全学委員			
	杉成支援委員会		
(第1回:4月]・第2回:6月・第3回:7月・第4回:10月・第5回:1月・第6回:3月)		
	対応(求人・会社PR・情報収集等)	企業293社	(560)
	相談】()内は前年度の数値		
-	(原則 月・水・金の午後):779人(721) / Oセンター職員(随時):49人(105)		
	- ク鹿児島 就職支援ナビゲーター(原則 火・木 10:30~16:30):625人(636) は実施方法を対面からWebに変更したものを示す。		

[※]網掛け部分は実施方法を対面からWebに変更したものを示す。

令和2年度 各学部の就職相談状況(就職相談員・キャリア形成支援課職員)

															学	部															^	=1		R元
	相談員		法	文			教	育			Į	I			医	歯			=	L		Æ	ŀЩ	同獣医	_		水	産			台	計		年度
年月	勤務 日数	就職	目談員	形成	rリア 支援課 員	就職相	談員	キャリ 形成支 職員	摄係	就職相	目談員	キャリ 形成支 職員	腰保	就職相	談員	キャリ 形成支担 職員	要係.	就職相	談員	キャ! 形成支 職員	摄係	就職相	目談員	キャリ 形成支 職員	援係	就職相	目談員	キャ! 形成支 職!	援係	就職村	目談員		リア を援係 員	
	日		人		人		人		人		人		Y		人		Y		Y		Y		人		Y	人			人		人		Y	人
4月	16	47	(36)			11	(6)			10	(2)			2	(2)			25	(15)	1	(0)	14	(5)			3	(3)	1	(0)	112	(69)	2	(0)	138
5月	14	25	(16)			4	(4)	1	(1)	4	(2)			8	(8)			15	(9)	1	(0)	11	(10)	3	(2)	7	(2)			74	(51)	5	(3)	102
6月	15	46	(24)			1	(1)			4	(3)	3	(0)	24	(24)			10	(6)	2		17	(12)	2	(1)	9	(4)	1		111	(74)	8	(1)	88
7月	11	36	(26)	3	(1)	2	(2)	2	(1)	2	(2)	2	(0)	12	(12)			13	(7)	1		8	(4)	1	(1)	11	(5)	2		84	(58)	11	(3)	80
8月	7	17	(9)	3	(1)	4	(1)	1	(1)	8	(3)			2	(2)			5	(1)			9	(6)			4	(4)			49	(26)	4	(2)	55
9月	4	10	(7)	1	(1)	2	(2)			3	(1)			2	(2)			0	(0)			3	(2)			4	(3)	1	(0)	24	(17)	2	(1)	20
10月	4	6	(4)			0	(0)			2	(2)	2	(2)	2	(2)			0	(0)			5	(0)			5	(5)			20	(13)	2	(2)	26
11月	4	5	(4)			1	(0)			2	(2)			2	(2)			4	(2)			1	(0)	2		1	(1)			16	(11)	2	(0)	9
12月	9	21	(11)	1	(0)	0	(0)			1	(0)			0	(0)			3	(2)			16	(14)			0	(0)			41	(27)	1	(0)	29
R3年1月	9	22	(7)			0	(0)	1	(1)	4	(0)			1	(1)			9	(2)	1	(0)	4	(2)			2	(2)	1	(0)	42	(14)	3	(1)	82
2月	15	29	(18)			10	(9)			8	(2)			2	(2)			19	(8)	1	(0)	19	(15)			6	(3)	1	(0)	93	(57)	2	(0)	85
3月	15	33	(27)	1	(0)	8	(6)			19	(12)	2	(1)	1	(0)	1	(1)	11	(4)	1		28	(19)	2	(0)	13	(7)			113	(75)	7	(2)	112
年度計	123日	297	(189)	9	3	43	(31)	5	(4)	67	(31)	9	(3)	58	(57)	1	(1)	114	(56)	8	(0)	135	(89)	10	(4)	65	(39)	7	(0)	779	(492)	49	(15)	
学部別相談	後者合計		306	(192	2)		48	(35)			76	(34)			59	(58)		1	122	(56)			145	(93)			72	(39)			828	(507	7)	826
学部	割合		37	.0%			5.	8%			9.3	2%			7.	1%			14	.7%			17	.5%			8.	7%			10	0%		
(注1)((注2)既)内の 卒者、					を示	す。ま	た学	部割	合の	%(‡	全学	部の	相談	者合	計に対	19	る割合	合を	示す。										%R ₇	年度	同時期		6件

- (注1)()内の数字は女子(内数)を示す。また学部割合の%は全学部の相談者合計に対する割合を示す。

- (注2) 既卒者、大学院生を含む。 (注3) 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため4/22~5/20までWebやメールによる遠隔相談を実施 (注4) 新型コロナウイルス感染拡大防止のため11/18~12/3までWebやメールによる遠隔相談を実施

令和2年度 就職支援ナビゲーターによる就職相談状況 (令和2年4月~令和3年3月)

									ターに 分~1:								令和一	
	法	文	教	育	耳		医	歯	I		共同		水	産	/]\	計	元年度	
4.5		人(25)		, ,		人 (x)		人	_	人		人(40)	,	Y		人(45)		
4月	25	(25)	3	(3)	3	(2)	1	(1)	7	(4)	11	(10)	1		51	(45)	64	
5月	6	(4)	2	(1)	1	(1)	5	(5)	4	(2)	6	(3)	3	(1)	27	(17)	62	※4/22~5/20まで新型コロナウイルス感染予防のため、相談対応を中止
6月	18	(10)	6	(5)	7	(3)	20	(20)	3	(3)	13	(10)	3	(0)	70	(51)	77	
7月	29	(16)	9	(9)	7	(4)	9	(9)	5	(2)	12	(9)	4	(0)	75	(49)	62	
8月	25	(19)	12	(12)	7	(3)	3	(3)	5	(2)	10	(9)	1	(1)	63	(49)	57	
9月	24	(14)	0	(0)	3	(1)	6	(6)	3	(0)	11	(7)	6	(5)	53	(33)	35	
10月	27	(18)	3	(3)	7	(1)	2	(2)	9	(0)	8	(6)	0	(0)	56	(30)	41	
11月	8	(8)	2	(0)	3	(0)	2	(2)	4	(1)	6	(4)	0	(0)	25	(15)	30	※11/18~12/3まで新型コロナウイルス感染予防のため、Webやメールによる遠隔相談を実施
12月	19	(13)	0	(0)	6	(1)	0	(0)	8	(5)	4	(2)	0	(0)	37	(21)	45	
令和2年1月	25	(18)	0	(0)	4	(0)	0	(0)	13	(7)	6	(4)	0	(0)	48	(29)	64	※1/4~2/1まで新型コロナウイルス感染予防のため、Webやメールによる遠隔相談を実施
2月	10	(7)	3	(3)	5	(2)	1	(1)	5	(0)	10	(9)	3	(0)	37	(22)	36	
3月	18	(12)	4	(3)	12	(4)	1	(0)	8	(4)	23	(9)	17	(9)	83	(41)	63	
R2年度計	234	(164)	44	(39)	65	(22)	50	(49)	74	(30)	120	(82)	38	(16)	625	(402)	636	

令和元年度同時期の累計;636件

- (注1) ()内の数字は女子(内数)を示す。
- (注2) 既卒者、大学院生を含む。
- (注3) 平成28年度から学部での就職相談は中止/平成30年度以降の相談日は週2日(平成29年度までは週3日以上)

2021年3月卒対象求人件数

								2021年3月	末現在	_
	国家・地方を	公務員、独	立 行政法人			左記以外				
年月	県内	県外	小計	キャリア形	成支援課	ハロー	ワーク	小計	合計	
	710. 7	7(0)		県内	県外	県内	県外			
2020年3月	2	56	58	93	672	0	0	765	823	
4月	2	48	50	35	59	0	0	94	144	※既卒者対象求 人3件を除く
5月	4	72	76	13	43	0	0	56	132	
6月	2	28	30	31	76	2	0	109	139	
7月	20	68	88	68	69	0	0	137	225	
8月	7	30	37	31	52	0	0	83	120	
9月	3	13	16	22	33	3	0	58	74	
10月	3	18	21	18	48	0	0	66	87	※既卒者対象求 人2件を除く
11月	4	12	16	17	24	0	0	41	57	
12月	2	15	17	12	19	1	0	32	49	
2021年1月	1	10	11	3	21	0	0	24	35	
2月	0	9	9	7	10	0	0	17	26	
3月	1	12	13	29	159	0	0	188	201	
合計	51	391	442	379	1285	6	0	1670	2112	
(2020年 3月卒対象)	47	381	428	369	1669	7	13	2058	2486	

3. インターンシップ

(1) 窓口の一本化

キャリア形成支援センター設置と同時に、令和2年度から学内のインターンシップ取扱い窓口を一本化し、学生への情報提供や事前の相談体制を整備した結果、以下の「インターンシップ窓口利用状況」に示すとおり、年間利用学生数は延べ1,100人となった。大学経由で申し込むインターンシップの参加学生数と受入企業・団体数も、「大学経由インターンシップ参加学生数」と「受入先企業等数」のとおり、大幅に増加した。

インターンシップ窓口 利用状況

2021年3月

学部	法文	学部	教育	学部	理学	≐部	医·箧	学部	ΙË	常	農等	≐部	共同獣	医学部	水産	学部	他		合	it .
F \		女子		女子		女子		女子		女子		女子		女子		女子		女子		女子
4月	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	4	
5月	9	3	0	0	0	0	0	0	2	0	4	4	0	0	0	0	0	0	15	
6月	124	72	11	4	7	3	0	0	6	1	42	23	0	0	21	12	0	0	211	11
7月	145	101	13	10	13	6	0	0	11	5	66	32	3	3	11	7	1	0	263	16
8月	57	44	4	3	13	12	0	0	10	3	32	14	0	0	4	3	0	0	120	7
9月	50	48	4	4	2	2	0	0	4	1	4	2	1	1	1	1	0	0	66	5
10月	92	71	9	9	6	2	0	0	13	1	20	10	3	3	6	3	0	0	149	9
11月	43	40	4	3	5	1	0	0	26	6	8	3	7	6	4	0	0	0	97	5
12月	23	21	6	5	5	1	0	0	19	1	4	0	3	2	1	0	1	0	62	3
1月	52	51	11	11	0	0	0	0	11	6	4	0	0	0	0	0	0	0	78	6
2月	2	1	6	6	1	0	0	0	1	0	5	3	1	1	0	0	0	0	16	1
3月	6	3	4	4	0	0	0	0	2	0	7	1	0	0	0	0	0	0	19	
累計	604	455	73	59	52	27	0	0	105	24	198	94	18	16	48	26	2	0	1,100	70
前年度																			0	
引時期 【計)			,														<i>/</i>			
学年別】																				
学年	14	年	24	年	35	年	4	ŧ	М	1	М	2	既	卒	左記	以外		1	合計	
学年月	14	年 女子	24	年 女子	34	女子	4	年 女子	М	1 女子	М	2 女子	既	卒 女子	左記	以外 女子		1	合計	子
	1 ⁴ 0	女子	2 ⁴ 0	女子	3± 0	女子	4:	女子	M 0	女子	М 0	女子	既.	女子	左記 0	女子		4		
月		女子		女子		女子		女子 2		女子 0		女子		女子		女子				2
4月	0	女子 0 0	0	女子 0 0	0	女子 0 4	4	女子 2 2	0	女子 0 0	0	女子 0 0	0	女子 0 0	0	女子 0 1		4		7
月 4月 5月	0	女子 0 0	0	女子 0 0	0	女子 0 4	4 5	女子 2 2 2	0	女子 0 0 3	0	女子 0 0	0	女子 0 0	0	女子 0 1 0		4 15		115
月 4月 5月 6月	0 0 1	女子 0 0 1	0 0 4 9	女子 0 0 0	0 7 191	女子 0 4 109 144	4 5 9	女子 2 2 2	0 2 6	女子 0 0 3	0	女子 0 0 0	0	女子 0 0 0	0 1 0	女子 0 1 0		4 15 211		118
月 4月 5月 6月 7月 8月 9月	0 0 1 5 5	女子 0 0 1 4 3	0 0 4 9	女子 0 0 0 3	0 7 191 231	女子 0 4 109 144 68	4 5 9 5	女子 2 2 2 4 1	0 2 6 12 6	女子 0 0 3 9 2	0	女子 0 0 0	0 0 0	女子 0 0 0 0	0 1 0	女子 0 1 0 0		4 15 211 263		118 164 79
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月	0 0 1 5 5	女子 0 0 1 4 3 3	0 0 4 9 9	女子 0 0 0 3 5 0	0 7 191 231 97 58	女子 0 4 109 144 68 55	4 5 9 5 3 1	女子 2 2 2 4 1 1 2	0 2 6 12 6 3	女子 0 0 3 9 2 0	0 0 0 0 3	女子 0 0 0 0 0	0 0 0 1 0	女子 0 0 0 0 0	0 1 0 0	女子 0 1 0 0 0		4 15 211 263 120 66 149		115 164 79 59
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月	0 0 1 5 5 3 9	女子 0 0 1 4 3 3 9	0 0 4 9 9	女子 0 0 0 3 5 0	0 7 191 231 97 58 118	女子 0 4 109 144 68 55 82 45	4 5 9 5 3 1 4	女子 2 2 2 4 1 1 2	0 2 6 12 6 3 7	女子 0 0 3 9 2 0 4	0 0 0 0 0	女子 0 0 0 0 0 1 1	0 0 0 1 0 0	女子 0 0 0 0 0 0	0 1 0 0 0	女子 0 1 0 0 0 0		4 15 211 263 120 66 149 97		118 1164 79 59
月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月	0 0 1 5 5 3 9	女子 0 0 1 4 3 3 9 7	0 0 4 9 9 1 8	女子 0 0 0 3 5 0 1 0	0 7 191 231 97 58 118 74	女子 0 4 109 144 68 55 82 45	4 5 9 5 3 1 4 5	女子 2 2 2 4 1 1 2 5	00 22 66 12 66 33 77 99	女子 0 0 3 9 2 0 4 1	0 0 0 0 0 3	女子 0 0 0 0 0 0 1 1	0 0 0 1 0 0	女子 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0	女子 0 1 0 0 0 0 0		4 15 211 263 120 66 149 97 62		118 164 79 59 99
月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月	0 0 5 5 5 7 7	女子 0 0 1 4 3 3 9 7 7	0 0 4 9 9 9 1 1 1	女子 0 0 0 3 5 0 0 0 0	0 7 7 191 231 97 58 118 74 45 58	女子 0 4 109 144 68 55 82 45 22	4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	女子 2 2 2 4 1 1 2 5 0	0 2 2 6 6 12 6 6 7 9 9 9 9 3 3	女子 0 0 3 9 2 0 4 1 1	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	女子 0 0 0 0 0 0 1 1 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	女子 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	女子 0 1 0 0 0 0 0 0		4 15 211 263 120 66 149 97 62		11111111111111111111111111111111111111
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 2月	0 0 1 5 5 3 9 7 7	女子 0 0 1 4 3 3 9 7 7 7 7	0 0 4 4 9 9 1 1 1 0	女子 0 0 0 3 3 5 0 0 0 0	0 7 191 231 97 58 118 74 45 58 9	女子 0 4 109 144 68 55 82 45 22 52	4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	女子 2 2 4 1 1 2 5 0 5	0 0 2 6 6 6 7 7 9 9 9 9 3 3 1 1	女子 0 0 3 9 2 0 4 1 1 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	女子 0 0 0 0 0 0 1 1 1 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	女子 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	女子 0 1 0 0 0 0 0 0 0 0		4 15 211 263 120 66 149 97 62 78		118 118 118 118 118 118 118 118 118 118
月 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 1月 2月 3月	0 0 0 1 1 5 5 5 7 7 7 7 11 11 3 3 0 0 0 0 1	女子 0 0 1 1 4 3 3 3 7 7 7 7 11 3 3 0 0	0 0 4 4 9 9 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	女子 0 0 0 3 5 0 0 0 0 0 0	0 7 191 231 97 58 118 45 58 9 9 16	女子 0 4 109 144 68 55 82 45 22 52 5	4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	女子 2 2 4 1 1 2 5 0 5 1 0	0 0 2 2 12 6 6 3 3 3 7 7 9 9 9 1 1 1 1 1	女子 0 0 3 9 2 0 4 1 1 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	女子 0 0 0 0 0 1 1 1 0 0	00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00 00	女子 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	女子 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		4 15 211 263 120 66 149 97 62 78 16	b	118 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2
4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 2月	0 0 1 5 5 3 9 7 7	女子 0 0 1 1 4 3 3 3 9 7 7 7 11 3 3 0 0	0 0 4 4 9 9 1 1 1 0	女子 0 0 0 3 5 0 0 0 0 0 0	0 7 191 231 97 58 118 74 45 58 9	女子 0 4 109 144 68 55 82 45 22 52 5	4 4 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5 5	女子 2 2 4 1 1 2 5 0 5 1 0	0 0 2 6 6 6 7 7 9 9 9 9 3 3 1 1	女子 0 0 3 9 2 0 4 1 1 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	女子 0 0 0 0 0 1 1 1 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	女子 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0	女子 0 0 0 0 0 0 0 0 0 0		4 15 211 263 120 66 149 97 62 78	b	7 1186 164 759 989 30 68 111 8

女子の欄は内数

大学经	由る	ハノター	- * , * , * , * , *	プ参加	学生数
	- T	-	22	~ ~~ //	T - W

インターンシップ種別	H28	H29	H30	H31(R1)		R2
インダーフララを使用	П20	пгэ	пзо	HST(KT)	エントリー数	参加数
キャンパスウェブ	78	46	17	19	4	4
インターンシップ窓口経由					283	134
地域キャリア・インターンシップ かごしま課題解決型インターンシップ			25	30	20	20
SKYCAMP					35	7
合計	78	46	42	49	342	165

受入先企業等数

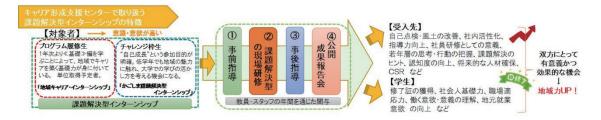
インターンシップ種別	H28	H29	H30	H31(R1)	R2
キャンパスウェブ	30	27	13	9	2
インターンシップ窓口経由					18
地域キャリア・インターンシップ かごしま課題解決型インターンシップ			14	11	12
SKYCAMP					1
合計	30	27	27	20	33

(2) 課題解決型インターンシップ

キャリア形成支援センターが企画・実施する「課題解決型インターンシップ」(図1) は、地域マインドの醸成を主たる目的とする「かごしまキャリア教育プログラム」の共通教育科目「地域キャリアインターンシップ」と、自己成長のため学生が自主的に参加する正課外の「かごしま課題解決型インターンシップ」の総称である。

鹿児島商工会議所の協力のもと、鹿児島県内に本社を置く企業や県内の自治体からプログラム提供を受けて実施しており、通常の就業体験に留まらず、提示された課題を解決するためのアイデアを学生目線で提案することで、鹿児島の地域特性や地域経済全体への理解やキャリア基礎力の向上を目指すものである。

図】



キャリア形成支援センター設置後、初めての実施となる令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念される中、29事業所から36プログラムが提供され、20人(「地域キャリアインターンシップ」の履修者8人、「かごしま課題解決型インターンシップ」12人)の学生が参加した。参加学生は、センターのインターンシップ担当教員から事前学習、事後学習の指導を受け、成果報告会まで約8カ月の長期に渡るプログラムに挑んだ。特に令和2年度は、コロナ禍での長期プログラムを遂行する上で、学生と受入先が共に不安なく、明確な参加目的のもと充実した実習となるよう、60ページに渡るガイドブックを新たに作成した。

令和2年度の本インターンシップは、「第4回学生が選ぶインターンシップアワード2021」において、職場適応力、課題解決力、プレゼンテーション力の向上を目的に県内29の事業所を受入先として、充実した10日間のプログラムを全学部・全学年に広く提供している点、また、その効果を最大化するために丁寧なガイドブックを作成している点などが高く評価され、「文部科学大臣賞」を受賞している。





(3) 地域密着型パイロット人財創出プログラム (SKYCAMP プログラム)

学生に多様なキャリアの可能性を提供すると同時に、鹿児島に根差したパイロットを輩出し、ひいては地域社会の発展に貢献することを目的に、令和2年10月5日に本学と日本航空㈱(以下 JAL)、日本エアコミューター(㈱(以下 JAC)が締結した連携協力協定に基づき、令和2年度からスタートしたものである。まずは11月6日、11日の計2回、JAC、JALより現役パイロットを招いて開催したSKYCAMPの説明会には、84人の学生が参加した。その後、対象学年となる学部3年生、修士1年生の応募者35人の中から選ばれた7人(法文学部1人、理学部1人、工学部2人、理工学研究科3人)が、1期生として操縦飛行体験プログラムSKYCAMPに参加することになった。令和3年3月1日~13日までの計11日間、JACの協力により実施したSKYCAMPでは、鹿児島空港内のフライトトレーニングセンターで、座学やフライトシミュレーターによる操縦訓練、実際の飛行機の操縦等、様々な体験を経て、参加者全員が修了証を手にした。修了者の中から本学が推薦した2人(工学部1人、理工学研究科1人)がJACの条件付内定者として決定しており、卒業・修了後に崇城大学の研究生としてパイロットライセンス取得を目指すことになっている。





4. 大学コンソーシアム鹿児島「地域連携・就業部会」

令和2年度は、地域連携・就業部会をメール会議やオンラインで4回開催した(うち1回は高等教育機関部会委員によるワーキング)。部会の協働事業として、若年者の県内定着を促進するため、「進学・就職応援フェア みらいワーク "かごしま"」を鹿児島県等と共催し、参加者は610人、出展数は82(企業44社、学校27校、団体11団体)であった。

また、地元企業見学バスツアーは、新型コロナウイルス感染拡大状況に鑑み中止としたが、令和3年度の実施に向け、バーチャルもしくは対面型でのバスツアー等の実施方法や実施体制、スケジュールなどの詳細について協議し、計画を作成した。

アドミッションセンター概要

アドミッションセンターは、入学者選抜方法の改善、中長期的な入学者選抜方法の在り方の策定、入学者選抜機能の検証、学生確保に係る広報活動等を行うことにより、継続的に優秀な学生を確保することを目的として平成26年4月に設置された。

アドミッションセンターは、次に掲げる事項について実施する。

- (1) 入学者選抜方法等に係る調査、研究
- (2) 入学試験データの分析、評価
- (3) 学部及び研究科からの求めに応じた入試に関する助言
- (4) その他センター長が必要と認めた業務に関すること。

また、アドミッションセンターは、各学部と共同し、次に掲げる事項について企画立案及び実施する。

- (1) 入学者選抜方法の改善に関すること。
- (2) 中長期的な入学者選抜方法の在り方の策定に関すること。
- (3) 入学者選抜機能の検証に関すること。
- (4) 入学後の学業成績の追跡調査に関すること。
- (5) 学生確保に係る広報活動に関すること。
- (6) 全国的な志願者動向を踏まえた志願状況の分析に関すること。
- (7) その他センター長が必要と認めた業務に関すること。

1. 調査・研究について

アドミッションセンターが行っている主な調査・研究は、以下のとおり。

- (1) 入学者選抜方法等に関する調査、研究
- (2) 入学試験データの分析、評価
- (3) 受験生向け広報活動の企画立案と推進

2. アドミッションセンターの組織

センター長(高大接続・入試広報担当学長補佐)、入試担当学長補佐、専任教員(1名)、兼務教員(1名)、担当事務(専門職員及び特任専門員)で構成されている。(令和3年6月現在)

鹿児島大学主催 単独説明会の実施

1. 実施の狙い

(1) 地域貢献と地域連携の強化

特に、鹿児島県の地方部(離島を含む)に居住する高校生、高校教員との連携強化。

(2) 鹿児島大学のステークホルダーに対して、鹿児島大学を理解してもらう機会の創出。

2. 開催方針

大学に触れる機会の少ない鹿児島県内の地方部で、鹿児島大学への志望者が多い地域での開催を優先する。

3. プログラム

- (1) 鹿児島大学の教育と研究
- (2) 鹿児島大学の入試の特徴
- (3) 鹿大生からのメッセージ (大学生活紹介、合格体験談等)

4. 開催実績(直近3年)

<平成30年度>

- ・大隅会場(鹿児島県立志布志高等学校) 平成30年7月7日(土)開催
- · 奄美大島会場 (鹿児島県立大島高等学校) 平成30年7月14日 (土) 開催
- · 徳之島会場(鹿児島県立徳之島高等学校) 平成30年7月21日(土) 延期

(台風接近のため)

平成30年9月29日(土)中止

(台風接近のため)

<令和元年度>

- ·南薩会場(鹿児島県立加世田高等学校) 令和元年7月6日(土)開催
- · 奄美大島会場(鹿児島県立大島高等学校) 令和元年7月13日(土) 開催
- ・徳之島会場(鹿児島県立徳之島高等学校) 令和元年7月20日(土) 開催

<令和2年度>

・奄美大島会場(鹿児島県立大島高等学校) 令和2年7月11日(土) 開催 ※新型コロナウイルス感染症対策として、高校への直接訪問は行わず、テレビ会議システムを活用し遠隔実施

高等学校での大学説明会の実施

1. 実施の狙い

南九州地域(鹿児島県、宮崎県、熊本県)からの安定的な志願者確保のため、高校生に対し、 鹿児島大学の教職員が直接高校を訪問し、教育、研究や入試内容を説明することで、鹿児島大学 への理解と共感を深めてもらう機会とする。

2. 概要

<実施時期>

入学者選抜要項公表後の7月中旬から9月下旬

<形式>

鹿児島大学の教職員が高等学校を訪問し直接生徒に説明を行う。

<説明内容>

- ・入試説明(教科、科目及び配点、主な変更点)
- ・教育、研究内容(本学が派遣する教員の特色ある研究紹介等)
- ・学生生活(入学料、授業料(免除制度も含む)、奨学金、サークル活動、学生寮)
- ・就職状況
- ・その他 (高等学校からの要望事項)

3. 導入によって期待される効果

南九州地域から、鹿児島大学で学びたいという強い意欲を持った志願者の増加。

4. 令和2年度実績

番号	実施日	高等学校等名	参加生徒数	担当学部等
1	9月 8日 (日)	伊集院高等学校	15	医学部保健学科
2	9月11日(金)	宮崎農業高等学校	12	農学部
3	9月18日(金)	宇土高等学校	28	入試課
4	9月18日(金)	松陽高等学校	48	入試課
5	9月19日(土)	日南高等学校	12	法文学部
6	9月23日(水)	宮崎南高等学校	82	入試課
7	9月28日 (月)	指宿高等学校	22	入試課
8	9月29日(火)	慶誠高等学校	7	入試課
9	10月 2日 (金)	熊本農業高等学校	18	農学部
10	10月 5日 (月)	人吉高等学校	60	入試課
11	10月 6日(火)	鹿児島実業高等学校	168	入試課
12	10月 8日 (木)	鹿児島工業高等学校	25	工学部
13	10月13日(火)	加治木高等学校	120	入試課
14	10月14日(水)	都城西高等学校	25	医学部保健学科
15	11月 7日 (土)	大口明光学園高等学校	31	入試課
	計	15校	673	

高等学校等からの大学訪問受け入れの実施

1. 実施の狙い

将来の受験候補者や受験候補者を指導する指導教員、ならびに、将来の受験候補者の保護者に 実際に鹿児島大学のキャンパスに来ていただき、鹿児島大学を体感していただくことで、受験候 補者の裾野を広げるため。

2. 概要

<実施時期>

原則4月下旬~11月

<形式>

鹿児島大学教職員からの大学概要説明、およびキャンパス内の見学。 その他、訪問校のニーズに沿って可能な範囲で対応する。

3. 令和2年度実績

番号	受入		学校名	学年等		訪問	者数		説明者
留万	() ()	Р	子仪名	子平寺	生徒等	教諭	保護者	計	就奶油
1	10月16日	(金)	大分県立日田高等学校	2年生	35	3	0	38	アドミッションセンター、 工学部、農学部
2	10月23日	(金)	鹿児島市立城西中学校	3年生	249	13	0	262	入試課、教育学部、 農学部、共同獣医学部
3	11月2日	(月)	熊本県立人吉高等学校	РТА	0	3	42	45	入試課
4	11月4日	(水)	鹿児島県立川辺高等学校	1年生	61	7	0	68	入試課
5	11月10日	(火)	鹿児島県立指宿高等学校	1年生	95	4	0	99	入試課
※新	型コロナ!		年度合計 5校 スの影響で、9月から受けノ	小開始	440	30	42	512	

秋季オープンキャンパスの実施

1. 実施の狙い

オープンキャンパスは例年8月上旬の夏季に開催をしているが、平成29年度から、秋季にも開催している。本学の魅力について高校生に情報提供することで、本学に一層の興味、関心を持ってもらい、志願者増に結びつけるとともに、魅力ある講義等を体験してもらうことで、参加者に本学で是非学びたいという動機付けを図る。

2. 概要(令和2年度)

<対象> 高校生、保護者、高校教諭

<実施日時>

・対面型企画 令和2年11月14日(土)

- ・ベストティーチャー賞受賞者による体験講義
- ・女子高生のための鹿大女子トーク!
- ・郡元キャンパス学部・学科訪問
- · 大学進学相談会
- ・オンライン進学相談会
- ・動画公開 (ミニ講義、大学紹介、学部紹介)

令和2年度実績

内容	参加者数
体験講義	82
女子高生のための鹿大女子トーク!	49
郡元キャンパス学部・学科訪問	174
進学相談会(当日受付)	13
オンライン進学相談会	29
延べ参加者数	347



令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策を徹底しての実施となり、対面型企画及びオンライン型企画を同時に行った。対面型企画としては、令和元年度ベストティーチャー最優秀賞受賞の先生による生の講義を体感する「体験講義」、本学女子学生による受験の体験談や大学生活を紹介し、参加者からも質問を受ける「女子高生のための鹿大女子トーク!」、郡元キャンパス内の各学部の施設を教職員や大学生が案内する「郡元キャンパス学部・学科訪問」、入試や大学進学などの疑問にお答えする「大学進学相談会」を実施した。また、オンライン企画として、各学部教職員による「オンライン進学相談会」、「動画公開」(ミニ講義、大学紹介、学部紹介)を行った。

入試改革研究会の実施

1. 実施の狙い

共通テストの刷新や多面的評価導入の要請等、近年の入試改革を取り巻く社会状況は急激な変化を見せており、そのような時期に本学は第3期中期計画の最終年度を迎える。続く第4期6年間の目標と計画の策定に向けて、短期的で急激な変化だけにとらわれるのではなく、中・長期的視点から入試改革を検討していく必要がある。例えば、10年後には大学進学者数が現在よりも5万人程度減少すると推計され、国内大学の淘汰は避けられない。

国公私立大学に海外大学まで含めた環境を前提として、戦略的な入試広報を検討すべき状況にある。

このような状況をふまえ、その場しのぎではなく実効性・持続性のある改革を構想していくためには、高校生を大学へと送り出す進路指導の現場や、高大が連携して育成を目指す諸能力の実態に関する、現実的で具体的な知見が求められるだろう。そこで、高校進路指導及び高大接続におけるアクティブラーニングの分野に詳しく全国的な講演実績のある講師を招聘し、それぞれの視点から地方国立大学の10年後の社会状況を見据え、本学における入試改革の議論を深めることの一助としたい。

2. 概要(令和2年度)

<対象>

アドミッションセンター運営委員会委員 全学入試委員の教職員 その他、参加を希望する学内教職員

<実施日時>

令和3年3月15日(月) 13:00~15:30

<場所>

オンライン開催

<講師・演題>

①倉部史記氏(NPO 法人 NEWVERY 理事)

【演題】「進路指導の視点から10年後の高大接続を考える|

②野吾教行氏(河合塾教育研究開発部)

【演題】「アクティブラーニングの視点から10年後の高大接続を考える」

<参加実績>40名

当日の様子





グローバルセンター

グローバルセンター

令和2年度 グローバルセンター活動報告

I. グローバルセンター概要

●3部門概要

キャンパスグローバル化 Planning and Network

- 教育研究環境のグローバル化推進
- 国際的な情報発信
- 国際共同教育研究の推進支援
- ・若手教員海外研修支援事業の改善

外国人留学生 International Student

- 学生海外派遣 Study Abroad
- ・学部と連携した海外研修プログラム発展
- ・長期留学プログラムの開発、実施
- 学術交流協定校の戦略的開拓

P-SEG 混住寮 協働教育

- ・全学体制による戦略的な留学生獲得
- 留学生向け日本語日本事情教育
- ・地域社会と留学生の交流推進
- ・学部と連携した留学生受入支援体制整備

●教員

 センター長
 畝田谷 桂子

 CPグローバル化 Planning and Network
 学生海外派遣 Study Abroad
 外国人留学生 International Student

 教授
 中谷 純江
 教授
 畝田谷 桂子
 教授
 和田 礼子

 特任講師
 構放 美芸 (2021.1~)
 特任准教授
 森田 豊子
 講師
 市島 佑起子

世界展開力事業 Inter-University Exchange Project

特任助教 MARMOLEJO RAFAEL

- Ⅱ. 令和2年度の活動内容
- 1. 令和2年度グローバルセンター運営委員会
 - (1) 主な審議事項
 - A. 教務・教育プログラム運営

大学の世界展開力強化事業/日本語・日本文化研修留学生プログラム

Study Japan Program 開設科目と修了要件(前後期)/修了認定(前後期)/協定締結

B. 学生受入・派遣

鹿大「進取の精神」支援基金事業 (留学生受入推進事業の募集・選考等) 鹿大「進取の精神」支援基金事業 (留学生受入推進事業の実施延期)

C. 雇用・管理

特任教員選考員会設置・選考申合せ決定/特任教員の補充・雇用継続/令和元年度決算令和2年度予算/鹿大「進取の精神」支援基金予算/令和2年度・3年度非常勤講師雇用計画

新型コロナウイルス感染症対応

(2) 開催日	日 稈	* はメール会議
---------	------------	----------

回数	1*	2	3*	4*	5*	6*	7*	8	9*	10*
日程					令和	2年				
(始) (至)	4/2 4/3	4/7	4/17 4/21	5/1 5/7	5/21 5/25	6/17 6/19	7/28 7/30	9/15	9/18 9/23	10/19
回数	11*	12*	13	14*	15*	16*				
日程	令和	2年		令和	3年					
(始) (至)	11/17 11/19	12/16 12/18	1/27	2/17 2/19	2/25 3/1	3/25 3/29				

2. 令和2年度グローバルセンター教育関連事業(概要報告)

本節では、グローバルセンターが実施している事業の中から、特に学生教育を中心に概要を報告する。

(1) 学生海外派遣

(1a) 日本人学生の海外派遣実績

コロナ禍に見舞われた令和2年度は、以下の通り全ての派遣事業で実渡航は実施できなかった。

- ・鹿児島大学学生海外研修→全面中止
- ・鹿児島大学学生協定校派遣留学→中止 (希望者は年度を超えて延期)
- ・トビタテ!留学 JAPAN 日本代表プログラム
 - →第11、12期生の希望者は渡航延期、第13期生は選考途中で選考中止
- ・鹿大「進取の精神」支援基金事業による学生海外派遣事業(長期派遣)
 - →希望者は渡航延期
- · 鹿児島県清華大留学支援奨学金奨学生事業→中止
- ・パース市英語イマージョンプログラム PUPILS →中止
- ・鹿児島大学 21 世紀版薩摩藩英国留学生派遣事業「UCL 稲盛 留学生」→中止

この状況下で、「進取の精神グローバル人材育成プログラム(P-SEG)」を継続し、全学の海外研修や派遣留学等の学習機会についてロードマップによって学生に一体的な提示を行い、P-SEG 説明会、海外研修報告会、SNS 等による情報提供や啓発活動を継続し、新たに P-SEG 海外研修・留学啓発用パンフレットを 2 種作成して、学生の海外活動への興味やモチベーションを保った。Intensive English をオンライン開講し(10回/学期:5回以上受講した登録者135名)、TOEFL 模擬試験(85名参加)もオンライン開催した。また、鹿児島市ホームページにグローバルセンターホームページとのリンクを設けて姉妹都市パースとの高等教育における交流について発信した。

さらに、大学の世界展開力強化事業開始3年度目の知見と実績を活かして、実渡航の代替として全学規模でオンライン国際協働学習(COIL)を強化拡大し、以下のとおり受講生数が目標値を大幅に上回った。下表のうち、グローバルセンター教員が、本学学生60名、海外連携校学生116名を担当した。

数値目標とな	。アい7百日	令和2年度	令和2年度
数旭日保こな	うている項目	目標値	実績値
COUL英港比粉	本学学生数	133名	245 名
COIL 受講生数	海外連携校学生数	179名	298 名

本事業による COIL 受講生数 (21科目)

このほかに、本事業の海外連携校以外とも COIL を実施した(本学学生14名、外国人学生90名受講。このうちグローバルセンター教員担当50名)。加えて、新たに COIL 以外のオンラインによる国際教育として、海外 5 大学で本学学生向けに「Virtual Exchange Program」(約1~5週間の集中講義)を開発し、本学授業として実施した(7科目、本学学生64名、外国人学生15名参加。このうち2大学3科目をグローバルセンター教員が担当)。また、この授業料補助のため、グローバルセンター長が委員長を務める学生海外研修支援事業選考委員会で「オンライン海外研修支援事業」を創設し、27名を支援した。

このほか、国内他大学学生と海外大学講義を受講した科目(本学学生5名受講)があり、これら全てを含めると、渡航停止の海外研修の代替として、「オンラインによる国際教育」が全学で合計32科目実施され、本学学生365名と外国人学生412名に国際教育の機会を提供した。上述の通り、この多くの部分を、グローバルセンター教員が担った。

最後に、独立行政法人日本学生支援機構(JASSO)海外留学支援制度(協定派遣)の令和3年度採択数は、大学全体で9プログラム(うち5プログラムはグローバルセンター教員の応募プログラム)232名となり、令和2年度比30名の支援者数増となった。(令和2年度採択数:9プログラム 202名¹は、全研修中止。うち6プログラムはグローバルセンター教員の応募プログラム。令和元年度採択数:7プログラム176名は支援済)。

(1b) 海外留学啓発活動、指導

令和元年度の留学・海外研修帰国生に対する事後学習科目、報告会、令和2年度以降の渡航再開に備えた説明会、令和3年度海外研修及び派遣留学候補生選考を行った(説明会と報告会:総計890名参加。派遣留学説明会とトビタテ!留学JAPAN説明会各2回)。また、個別留学相談(22名参加)を実施した他、循環型留学啓発教育では、オンラインで留学体験発表と後輩への啓発を目的とする「伝えよう!私の海外体験」を1回実施した。また、留学帰国生による、学生海外派遣部門ホームページの留学体験談サイト「伝えよう!鹿大生の海外体験」への報告と留学情報を記入するファクトシートの掲載も継続して行った。海外渡航に関する大学の方針「国際交流事業に関する実施条件対応表」作成に関与し、大学を通した派遣生のみならず、私費渡航を計画している学生の渡航管理、指導を年間を通して行った。

(2) 日本人、留学生の協働学習

外国人留学生と日本人学生の協働学習を行うグローバルランゲージスペースの活動とし

-

¹後日追加採択の30名除く

て、昼休みの活動(外国語 Speaking Lunch Table)は、コロナ禍のため年間を通して中止、週1回、固定グループで学期に10回学習する「グロスペ外国語」は、前期は中止、後期はオンラインで実施した(後期61名登録:英、中、韓、マレー語)。例年通り、グロスペ外国語に対して参加者の報告コメントから、意義を認める回答が多数得られた。

(3) 外国人留学生受入

(3a) 外国人留学生受入状況、教育体制

外国人留学生対象「Study Japan Program」は、4月より全面オンラインで開講した。 開講に先立ち、Zoom を利用した遠隔授業の開始に向けて、非常勤講師及び担当職員を対象とした研修を実施し、体制を整えた。また留学生に対しては、プレースメントテスト受験、履修登録、履修相談がオンライン上で行えるよう整備し、英両言語での連絡体制を強化した。さらに、このような状況下でも留学生が多様な科目を受講できるよう、開講時間・開講科目等の調整を行った。外国人の入国が規制され、新規受入留学生数が大幅に減少した中の開講となったが、年間受講者総数は延べ200名であった。

平成29年度より継続の鹿大「進取の精神」支援基金留学生受入推進事業では、「研究留学生受入プログラム」にて4名を採用し、年度内に渡航が可能となった1名を受け入れた。同事業の「鹿児島日本語・日本文化研修プログラム」は2名を採用したものの、渡航制限により翌年度に延期となった。

さらに、前年度より継続の共通教育改革に合わせ、外国人留学生必修科目である日本語、日本事情科目を再構築した。新規学部留学生23名の内12名は、年度当初より自国から遠隔で授業履修を行う事となった。学内関係部署と連携し、未入国学生を含む新規学部留学生を対象に、遠隔授業による学習の問題やコロナ禍における生活不安等について、オンラインでの相談指導を重点的に行った。

(3b) 外国人留学生受入体制の充実

外国人留学生への経済的支援として、鹿大「進取の精神」支援基金留学生受入推進事業の「研究留学生受入プログラム」にて1名を支援した。また同事業により、年度内の入国が可能となった外国人留学生26名に対して、入国後の隔離費用及び空港所在地から鹿児島までの移動費用の一部を助成した。さらに、大学独自の奨学金として「留学生後援会奨学金(14名)」「種村完司奨学金(10名)」、「外国人留学生民間宿舎費助成事業(32名)」を継続して給付した。加えて新規留学生獲得のため、日本語学校で本学独自の進学説明会2件を主催し、他機関主催の進学説明会にも1件参加した。外国人留学生をサポートする「留学生受け入れサポートデスク」については、スタッフの募集、選考を行ったが、コロナ禍で活動は中止となった。

(4) 学生教職員への国際的な情報の発信

海外渡航のみならず、学内の交流も絶たれた学生に向けて、コロナ禍においても先を見据え、世界に目を向けて学習を継続する高い意欲を持ち続けられるよう、グローバルな視点やマインド、コミュニケーション能力の育成を図ることを目的に、2種類の冊子「未来は誰がつくる 視点をグローバルに」と、「セカイを変えよう P-SEG Interactive」を編集し、10月

と3月に発行するとともに、グローバルセンターの Web サイトからも必要情報が得られるように整えた。

(5) 国際共同教育研究の推進支援

コロナ禍により、2020年度派遣予定だった「鹿児島大学若手教員海外研修支援事業」教員3名(うち2名は「鹿大『進取の精神』支援基金若手研究者支援事業」による支援)は、2021年度に派遣を延期した。

(6) 2018年度採択 文部科学省大学の世界展開力強化事業「米国から鹿児島、そしてアジア へ一多極化時代の三極連携プログラム

グローバルセンターは、大学の世界展開力強化事業(以下「本事業」)を統括、担当して いる。令和2年度は、文部科学省により定められた同事業プログラム委員会による中間評価 を受審し、総括評価Aを得た。また、本学が組織した外部評価委員会において、総括評価S を得た。加えて、本事業の食と健康コースを運営している農林水産学研究科と、その連携校 である中国湖南農業大学がダブルディグリープログラム協定を締結するとともに、当該コー スの米国連携校であるノースダコタ州立大学と農学部がプログラム協定締結に合意し、調印 過程にある。また、「大学の世界展開力強化事業オンラインシンポジウム『COVID-19禍の 世界』閉ざされる境、つながる技術、共に創る未来」を開催し、連携校教員と学生を含む国 内外約180名の参加登録者を得た。加えて、コロナ禍で実施できない派遣、受入の代替とし て、オンライン国際協働学習(COIL)を強化し、受講者数は目標値を大幅に上回った(本 学学生受講者数245名:目標値153名、外国人学生受講者数298名:目標値199名)。さらに、 コロナ後の派遣、受入の補完ともなる新たな国際教育手法 COIL の質の向上のため、動画教 材等の新規作成や事業終了後も視野に入れた異分野連携構想に着手するとともに、本事業 ホームページに外部評価報告書、及びシンポジウムや各コースの報告等を掲載し、島嶼へき 地医療コースの和文と英文による成果報告を関西大学刊行 I-PAPER Vol.6, March 2021,IIEG に寄稿して、国内外への成果発信に貢献した。併せて、国際教育の効果測定のため、BEVI (Beliefs, Events, and Values Inventory) の試用を開始した。

(7) 鹿大「進取の精神」支援基金事業

寄附金を原資とする同基金事業の実施報告として、「鹿大『進取の精神』支援基金 学生海外派遣事業 留学生受入推進事業 若手研究者支援事業 令和元年度事業報告書」を令和2年6月に刊行し、同基金を支援する目的で設立された鹿児島大学「鹿大『進取の精神』支援基金」支援会役員をはじめ関係各団体、企業に贈呈した。同事業による派遣は、教員、学生とも全て延期、受入は、令和3年1月に研究留学生1名が入国し、6月まで本学で研究を行った。

以上

グローバルセンター日本語科目の受講者数,性別,修了者数,受講者の在籍資格,専門・所属 令和2年度前期

	ľ		ļ	ľ							ŀ																	
	小	作用	51	修了			党講者の 征籍資格	E精資格												専門・外属	運山				- 1	ľ	ŀ	
₩ ₩	者数	男性	女		学部生	大学院生 研究:	30年 教育生	清 短期等	3等 研究	員 家族	等農学		水産	医学	₩ 十	法文教	無	世	学人文	教育	保険	五重		展	臨床 共同心理 樂展	共同 連合 辦保学研 農学	中 連 無 無 本 本	4 年 米
会話1A		Ī					L XB		-	-		1			H	+	+	H		2			1	t	_	т	-	-
A 計→C	C	C	C	C	C	C	C	C	-	C		-	0	C	C	C	C	C					C	c	C	c	-	-
A 記	7	2		2	>	7	o l	0	7	0)			0		>	>						7	>)	0	>	5
今話4A	oc	Δ	Δ	oc	C	c	0	C	c	C		1			C	0	-	C					C	-	C	C	0	C
会話5A	2	ω	2	5	0	2	1	0	2	0	0	0 0	0	0	0	ı m	0	0	0	0	0 0	2	0	0	0	0	0	0
会話6A	7	2	5	9	0	5	1	0	1	0					0	2	0	0					2	0	0	0	0	0
会話7A	11	4	7	11	0	0	0	0	11	0			0	0	0	2	2	0	0		0 0		0	0	0	0	0	0
総合日本語A	13	S	∞	13	0	1	1	0	11	0				0	0	2	4	0		3			1	0	0	0	0	0
演習1A																								l				
演習2A																												
演習3A	9	8	က	4	0	2	1	0	8	0		2 0	0	0	0	2	0	0		0	2 0		0	0	0	0	0	0
読 解 4 A	9	က	3	c	0	2	1	0	n	0					0	2	1	0	0			0	0	0	0	0	1	0
読 解 5 A	2	2	0	2	0	0	0	0	2	0		0 0		0	0	2	0	0					0	0	0	0	0	0
読解6A 論文読解基礎	12	4	∞	12	0	5	1	0	9	0	0			0	0	4	က	0		2			2	0	0	0	0	0
読解7A																												
作文4A																												
作文5A	8	2	1	3	0	0	1	0	2	0		0 0		0	0	က	0	0	0	0	0 0	0	0	0	0	0	0	0
作文6A	11	2	6	11	0	2	1	0	∞	0	0	0 0	0		0	2	က	0					0	0	0	0	0	0
コンピューター実習1																								l				
漢字1																												
漢字2	4	က	1	4	0	2	1	0	1	0		1 0			0	0	П	0					2	0	0	0	0	0
漢字3	က	2	1	က	0	1	0	0	2	0	0	0 0	0		0	2	0	0	0	0	0 0	0	0	0	0	0	1	0
日本語7-クショップA	15	10	5	15	0	2	1	0	12	0		1 0			0	7	4	0					2	0	0	0	0	0
異文化理解 1																												
日本社会と文化 1	5	2	3	4	0	1	1	0	က	0	0	1 0	0 (0	0	2	1	0	0	0	1 0	0	0	0	0	0	0	0
日本社会と文化 2	9	က	က	9	0	0	2	0	4	0		1 0			0	2	0	0					0	0	0	0	0	0
個了レポート																												
ポスター発表	2	2	3	5	0	0	0	0	2	0		0 0	0	0	0	4		0	0	0	0 0	0	0	0	0	0	0	0
日本語研修生レポート	5	2	3	5	0	0	0	0	2	0	0	0		0	0	4	1	0					0	0	0	0	0	0
By By Ay Ay Ay Ay Ay Ay	081	19	69	123	0	30	15	0	82	0	9	0 6	0	0	0	26	25	0	01 0		0 8	B	11	I	0	0	4	0
															H		H	H										\Box
1期 Step3																												
7ークショップ。1								-	-		\dashv				1	-	-	-							+		-	4
2期				1														-										4
7		1	1					-	-	-					1	1	-	-		_				1	1	1	\dashv	\dashv
							-	-	-		4				+	+	+	+	4	4				1	1		\dashv	4
_		1	1					-	-	-					1	1	-	-		_				1	1	1	\dashv	\dashv
2期 ワーケショップ		1						+	4	-					+	+	-	-	1	_				1	+	1	\dashv	4
桜ヶ丘キャンパス小計			Ì													-				4					1		\dashv	4
グローバルセンター開講科目 総計	130	19	69	123	0	30	15	0	82	0	9	0 6	0	0	0	29	25	0	0 10		8 0	w	11	7	0	0	4	0
			ľ		ŀ										ŀ	ŀ	ŀ										ŀ	
日本語 *	28	17	11	26	28	0	0	0	0	0					10	4	0	0		0			0	0	0	0	0	0
日本語 *	29	18	11	27	29	0	0	0	0 1	0	0 0	0 6	2	0	10	2	0 •	0	m (0 0	0	0	0	0	0	0	0 0
- 1	35	1	27	34	87	О	0	0	1	0			ı		OI I	٥	4	5					О	Э	О	О	Э	5
共通教育科目 計	92	25	40	87	85	0	0	0	7	0	0 26	0 0	7	0	30	15	4	0	9 1	1 6	0 0	0	0	0	0	0	0	0
			l								l							l									l	l

注)1 数字は延べ数。
2 専門・所属:予備教育生はそれぞれの専門によって分類。
3 短期等:特別聴講学生、特別研究生、県費留学生、教員研修留学生、日本語日本文化研修留学生、科目等履修生。4 修了者数欄
5 共通教育科目は共通教育センターで単位認定を行っている。
6 グレーセル:開講しなかった科目

グローバルセンター日本語科目の受講者国籍 令和2年度前期

	国 別 人 数 総 計	3	2	64	2	2	5	9	92	6	I	91	11	4	18	3	222
	共通教育科目 計	0	0	38	0	0	0	I	36	I	0	0	0	0	10	3	. 76
	□★₩≝▼	0	0	14	0	0	0	1	14	1	0	0	0	0	4	1	35
	田 柃 腊 =	0	0	12	0	0	0	0	13	0	0	0	0	0	3	1	59
	日本語 —	0	0	12	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	3	1	. 82
	グローベッセンダー	3	7	97	2	2	2	2	37	8	7	91	11	4	8	0	130
	三 麗 艦 葆 皿	H		Ì					_								1
	桜ヶ丘キャンパス 計	L															
	A 数 ケ 丘 ワ ー ク ショ ッ プ																
	※ 数~ 丘 ワー ク ショップ																
	国際交流会館 計																
	国際交流会館 クラス 2期 S S D D D D D D D D D D D D D D D D D D																
	国際交流 S S S S S S S S S S S S S S S S S S S	L															
		H									_	_				-	
	3 b e t t t t t t t t t t t t t t t t t t	H															
	国際 クラン 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1																
	S n d 菜田	3	2	97	2	2	2	2	37	8	1	91	11	4	8	0	130
	日本語研修生レポート	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0	0	2
	ポ ス タ ― 発 表	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	2	0	0	0	2
Ш	参 レ フ ポー ト	Г															
	日本社会と文化?	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2	1	0	1	0	9
	日本社会と文化1	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	1	0	5
本	異文化理解1																
	日本語ワークショップA	0	0	9	0	0	0	0	3	1	1	3	0	0	1	0	15
	漢字の	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	3
		0	1	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	4
	漢字□																
	コンピュータ 実 習 1																
	作 文 6 4	1	0	2	0	0	0	1	3	1	0	0	2	1	0	0	11
	作文ら々	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	B
	作 女 4 4																
	説 解 L A																
	誤 廃 9 A	1	0	3	0	0	0	0	4	1	0	0	2	1	0	0	12
	誤 隣 S A	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	2
	誤 靡 + 4	0	0	1	0	0	1	0	1	1	0	1	0	0	1	0	9
	無 m m ←	0	0	0	0	0	1	0	3	0	0	1	0	0	1	0	9
	※ 数 8 × ×	L															
	無 配 □ ◀																3
	% 布田本語 ◀	0	0	9 1	0	0	0	0	9 8	0]	0	0 (0 2	1	0 (0	1 13
	4 指 ∠ A) 1	0	7	0	0	0 (0 1	1 3) 1	0 (0 () 2	0 1	0 (0 (7 11
	会 括 S A 会 점 O A	0 0	0	0 1	0	0 0	0 0	0 1	3 4	0 0	0 0	2 0	0 0	0 1	0 0	0 0	2 2
		0	0	1 (1 0	0	1 (0	1 3	1 (0	1 2	0	0	2 (0	8
	徐福 ε ∀	Ĕ	Ě		H	É		É							i		
		0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	e
	≪ 指 L A		h					h									
Г		Г															
	納皿	7						7									
1	舞	ネン.	,X		+			スタン			I H	К	7	IJア	7	ゲイ	総数
		インドネシア	ウガンダ	H	ガイア	7	加減	タジキ	<u>H</u>	トルコ	4111	フランス	「ラジル	ブルガリ	ベトナム	マレーシア	受講者総数
Щ		$ \wedge $	£\	型	+	⋪	4Π	4X	#	_	\	1	Ť	1	.<	lγ	ήK

注)1 数字は延べ数。

グローバルセンター日本語科目の受講者数,性別,修了者数,受講者の在籍資格,専門・所属 令和2年度後期

			Į,	ľ			THE SAME	Apr. Apr.	1		ŀ									100									
	ij	世	<u></u>	14			受講者の在	報 一	湿	ŀ	1	ŀ	ļ					ŀ	ŀ	山 由	・ 外属	-			ŀ				
皿	N 岩 麗 数	型料	世女	- 数	学部生	大学院生	研究生	予備教育生	短期等	研究員	家族等層			兩	∦h H	法	教育	計	小計	人文 数	₩	保険 理.	H 素 茶 雅 雅		型 心 開 一 加 一	共同 戦医学研	連農合学	連続医医	● 大
会話1B	7	3	4	7	0	1	Т	1	0	0	0	2 1	0	H	0	0	0	0	0	H	H	H	L	H	H	0	0	0	⊣
会話2B	3	2	1	3	0	3	0	0	0	0	0	0 0	0 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 0	0 0	2	0	1	0	0	0
会話3B cerie																													
会話4B													-	\dashv								-	_						
会話5B	2	က	2	2	0	3	2	0	0	0	0	\dashv	0 0	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	1	0	0	2	0	0
会話6B	7	4	က	2	0	3	0	0	4	0	0	0 0		\dashv	0	4	0	0	0		1 0			0	\dashv	0	0	0	0
会話7B																													
総合日本語B																													
演習1B	7	က	4	7	0	1	2	1	0	0	0	H	H	H	0	0	0	0	0	H	H	H	L	□	H	0	0	0	⊣
演習2B	2	m	2	4	0	2	0	0	0	0	0	0 0	0 0	0	0	0	0	0	0	0	0	0 0	0 2		0	2	0	0	0
演習3B												H	-	-						H	-	-							
読解4B		ĺ							l	l											l								
芸解ら兄		ĺ										-							f		F			L				ĺ	
かいようり 三分子 主船 甘 球	y	L	7	L	c	c	c	c	y	c		+	+	+	C	L	,	c	c	+	+	+	+		+	c	c	c	c
- 1	٥	ဂ	4	Ω	5	>	0	0	٥	5	0	0	0	>	0	၁	-	0	0	0	0	0	0	>	>	5	0	0	О
読解7B																													
作文4B																													
作文5B																													
作文6B	4	m	1	m	0	0	0	0	4	0	0	0	H	H	0	2	0	0	0	H	H	H	0	0	H	0	0	0	0
作女7B	oc.	7	Δ	oc.	-	c	_	C	c	c	C	H	0	C	C	3	,	C	C		1	0	0	C	C	c	C	C	C
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		1			4		4	,	,	,	,)	1	>	,				1			,			
	2	C	-	c	c	0	c	c	c	c	c	H	H	H	c	c	c	c	c	H	H	H			H	c	c	c	C
※ 1.7 c) (7 -	10	,		,						+	+	+			0	0	0	+		+	4		> <	0		0	
	7	7	0	7	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	+	0	T 0	0	+	0	0	0	0
日本語ワークショッブB	_	4	33	4	0		33	0	3	0	0	-	\dashv	\dashv	_	cc	0	0	0	0	1	\dashv	0	_	0	0	0	0	0
異文化理解1																													
日本社会と文化 1																													
日本社会と文化 2	7	9	1	9	0	0	0	0	7	0	0	0	0 0	0	0	4		0	0	2	0	0 0	0	0	0	0	0	0	0
日本語研修生レポート																													
指小 目核IS	02	43	27	19	,	24	91	^	27	0	0	_	0	0	^	21	8	0	0	2	A	0	8	_	0	y	0	0	^
													╀	╀						╀	╁	╀	Ł	ł	╁				
3類 Step 3		İ		Ī								l	-	-				l	l		l	F		-	-				
		ĺ	ĺ	1						l	l	l	-	-				ĺ	l	l	+	l	-	-	ļ				
			Ť		İ		Ī	Ī	Ī	f	t	$\frac{1}{1}$	+	-				f	f	f	+	ł	-	-	-				
5週間 Step2			İ	Ī	1					1		1	1					1	1	1	1	1		1	1				
4期												1	-						1					-			Ī		
			1		1		Ì		1	1	+	+	-					1	1	+	$\frac{1}{1}$	-		-	-		J	Ĵ	
△																													
3/4期 ワークショップ																													
桜ヶ丘キャンパス小計																													
グローバルセンター開講科目 総計	02	43	27	19	I	24	91	2	27	0	0	7	2 0	0	I	21	3	0	0	2	9 4	0 2	2 8	7	0 .	9	2	0	7
												╂	╂	╂						╂	╂	╂	╟		╂				
日本語川*	32	21	11	29	31	0	0	0		0	0	\dashv	\dashv	\dashv	11	9	0	0	4	\dashv	\dashv	\dashv	_	0	\dashv	0	0	0	0
日本語IV*	30	19	11	28	30	0	0	0	0	0	0	Н	0 3	Н	10	2	0	0	3	Н	Н	Н	Н	0	0	0	0	0	0
日本事情B*	31	20	11	26	29	0	0	0	2	0	0	Н	Н	Н	10	9	1	0	က	Н	0 0	0 0	0 (0	0	0	0	0	0
共通教育科目 計	86	09	33	83	90	0	0	0	3	0	0	25 0	6 0	0	31	17	I	0	10	0	0 0	0 0	0 0	0	0	0	0	0	0
	163																												

注)1 数字は延べ数。 2 専門・所属:予備教育生はそれぞれの専門によって分類。 3 短期等:特別聴講学生、特別研究生、県費留学生、教員研修留学生、日本語日本文化研修留学生、科目等履修生。 4 修了者数欄 5 共通教育科目は共通教育センターで単位認定を行っている。

グローバルセンター日本語科目の受講者国籍 令和2年度後期

19 19 19 19 19 19 19 19																		
1		国別人数総計	B	41	7	7	22	9	7	8	7	II	Į	2	17	9	Į	<i>E91</i>
1		共通教育科目 計	0	37	0	0	38	0	0	0	0	0	0	0	12	9	0	63
13 17 17 17 17 17 17 17		日本事情日	0	12	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	31
中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、中では、		□ ★ 朏 ≥	0	12	0	0	12	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	30
### 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		日 本 語 〓	0	13	0	0	13	0	0	0	0	0	0	0	4	2	0	32
中		グローベナセンダー																
1 日 1		麗 熊 葆 皿 志	L												L			
1																		
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		※ D — クショップ ロボップ																
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		国際交流会館 計																
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		(A # # # # # # # # # # # # # # # # # # #																
1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		然 K S T a d 4																
## 1 2 3 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2			H	┝			H	H	H					H	H			
## 1 2 3 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2		(3) (3) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4) (4	H												H			
## 1 2 3 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2 4 2		M																
## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ## ##			S.	4	4	4	17	9	2	8	2	11	I	2	2	0	I	02
# B B B B B B B B B B B B B B B B B B B		日本語研修生レポート																
1 日 1		日本社会と文化2	0	\vdash	0	0	m	⊣	0	0	0	2	0	0	0	0	0	7
## 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本 日本		日本社会と文化1																
開		異文化理解:																
## おおお		日本語ワークショップB	0	0	0	0	1	П	0	0	0	3	0	0	2	0	0	7
## は		漢字3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	Ţ
## は			0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	3
# 2 2 3 3 4 3 2		★ ト																
## (4 記 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日	t	作文~B	0	T	0	0	4	0	0	0	0	Т	Ţ	0	⊣	0	0	90
田	*	作文6日	0	0	0	0	2	\vdash	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4
## 中																		
## 中		作 女 4 m																
## (4) 出 日 (1) 日		龍 箳 L B																
## 中			0	1	0	0	2	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	9
## 中																		
## (4 記 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日			_												L			
## (4 記 1 日 日 1 1 0 0 0 0 1 1 日 日 日 1 1 0 0 0 0																		1-
## (4 指 1 B			┢											0	⊢			
## (本語 1 日 日 1 1 0 0 0 0 0 1 1 日 日 1 日 日 1 1 0 0 0 0			1	0	2	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	O	
## A 出 日 日 日 日 日 田 市 中 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日															H			
# 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日 日					0	0				0	0	2	0					_
#		·		1 (⊢		-	
# 2 2 1 2 0 1 1 2 0 1 1 2 0 1 1 2 0 1 1 2 0 1 1 2 0 1 1 2 0 1 1 1 0 0 0 0			Ĕ	- 7											- 1		1	77
# A 出 口 の の 口 口 口 の の 口 口 出 か の の の の の の の の の の の の の の の の の の			H												H			
# 4 2 1 0 0 1 1 0 0 0 1 2 0 1				0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3
## P 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1		·	1	┢											┝			
	H	A.s. slore	H	H	_	_	\vdash	H					_	H	H		H	
■ 人 「端 「 ヤ 「 女 十十 「 十 」 「 よ 」 「 よ 」 レ レ レ レ ル 」 以		舞	インドネシア	車車		41	田中	トルコ	ネパール		パキスタン	ブラジル	ブルガリア	フィジー	ベトナム	ッ	ニャンマー	受講者総数

注) 1 数字は延べ数。

令和3年度 総合教育機構構成員一覧

令和3年度 総合教育機構構成員一覧

令和3年7月1日現在

所 属 等	職名	氏 名	
機構長	教育担当理事	武隈 晃	
副機構長	共通教育センター長	末吉 靖宏	
副機構長	学生部長	内山 修一	
◆高等教育研究開発センタ	_		
センター長	准教授	伊藤 奈賀子	
専任教員	准教授	出口 英樹	
専任教員	講師	中里 陽子	
専任教員	助教	森 裕生	
特任教員	特任助教	日髙 優介	
◆共通教育センター]
センター長	教授	末吉 靖宏	【再掲】
副センター長	教授	ネバラ ジュニア ジョン バッド	
副センター長	准教授	富山 清升	
初年次教育・教養教育部門]
部門長	准教授	渡邊 弘	
副部門長	准教授	中筋 健吉	1
専任教員	教授	大前 慶和	1
専任教員	教授	黒田 景子	
専任教員	教授	岩船 昌起	
専任教員	准教授	大野 克彦	1
専任教員	准教授	渡邊 弘	【再掲】
専任教員	准教授	藤田 志歩	
専任教員	准教授	塗木 淳夫	
専任教員	准教授	川端 訓代	1
専任教員	准教授	富山 清升	【再掲】
専任教員	准教授	伊藤 昌和	
専任教員	准教授	今井 裕]
専任教員	准教授	井村 隆介	1
専任教員	准教授	中筋 健吉	【再掲】
専任教員	准教授	坂井 美日	
専任教員	助教	河邊 弘太郎	
専任教員	助教	大野 裕史	
専任教員	助教	的場 千佳世	1
体育・健康教育部門	'		1
部門長	准教授	福満 博隆	1
副部門長	准教授	石走 知子	
専任教員	教授	末吉 靖宏	【再掲】
専任教員	准教授	福満 博隆	【再掲】
専任教員	准教授	石走 知子	【再揭】
専任教員	助教	髙橋 恭平	1

所 属 等	職名	氏 名	
外国語教育部門	'		
部門長	准教授	原 隆幸	7
副部門長	講師	寺西 光輝	
専任教員	教授	ネバラ ジュニア ジョン バッド	【再掲
専任教員	教授	髙橋 玄一郎	7
専任教員	教授	金岡 正夫	1
専任教員	准教授	トレマーコ ジョン	1
専任教員	准教授	ブレイジア アン エリザベス	7
専任教員	准教授	原隆幸	【再掲
専任教員	准教授	村山 陽平	1
専任教員	准教授	モニカ ハムチュック	7
専任教員	講師	藏本 真衣	
専任教員	講師	ニコライ ギュレメトヴ	
専任教員	講師	内尾 ホープ	7
専任教員	助教	日髙 佑郁	
専任教員	准教授	安東 清	
専任教員	准教授	鄭 芝淑	1
専任教員	講師	寺西 光輝	【再掲
◆キャリア形成支援センター	-		7
センター長	教授 (兼)	枚田 邦宏	7
専任教員	准教授	藤村 一郎	7
専任教員	助教	渡邊 和明	1
特任教員	特任助教	淺田 隼平	1
◆アドミッションセンター			7
センター長	教授 (兼)	太田 一郎	7
専任教員	准教授	小林 元気	1
◆グローバルセンター		·	7
センター長	教授	畝田谷 桂子	7
キャンパスグローバル化部門]	X	7
部門長	教授	中谷 純江	7
専任教員	教授	中谷 純江	【再掲
特任教員	特任講師	難波 美芸	
学生海外派遣部門			1
部門長	教授	畝田谷 桂子	【再掲
専任教員	教授	畝田谷 桂子	【再掲
特任教員	特任准教授	森田 豊子	1
外国人留学生部門		·	
部門長	教授	和田 礼子	
専任教員	教授	和田 礼子	【再揭
専任教員	講師	市島 佑起子	1
		·	
世界展開力事業担当			
世界展開力事業担当 専任教員	教授	中谷 純江	【再掲

注)(兼)は他学系からの兼務教員を示す。

鹿児島大学総合教育機構 KAGOSHIMA UNIVERSITY